

八戸市
次世代育成支援に関するニーズ調査

調査結果報告書（概要版）

平成21年8月

目 次

I 調査の概要.....	4
1 調査の目的.....	4
2 調査の対象.....	4
3 調査の方法.....	4
4 調査の実施時期.....	4
5 配布・回収の結果.....	4
II 調査結果のまとめ.....	5
III 就学前児童調査結果.....	9
1 お子さんご家族の状況について.....	10
2 お子さんの親御さんの就労状況について.....	12
3 保育サービスの利用について.....	13
4 お子さんの病児・病後児保育について.....	14
5 お子さんの一時預かりについて.....	15
6 お子さんの宿泊を伴う一時預かりについて.....	16
7 放課後児童クラブの利用について.....	17
8 ファミリーサポートセンターの利用について.....	18
9 地域子育て支援拠点事業について.....	19
10 子育て支援サービスの認知度・利用度について.....	20
11 子育てに関する情報入手について.....	21
12 ご家庭の子育てについて.....	22
13 保護者の就労状況と育児休業制度の利用について.....	24
14 地域での子育て環境について.....	25
IV 小学校児童調査結果.....	27
1 調査対象のお子さんご家族の状況について.....	28
2 お子さんの親御さんの就労状況について.....	30
3 放課後児童クラブの利用について.....	31
4 お子さんの放課後や土曜日の過ごし方について.....	32
5 お子さんの病児・病後児の対応について.....	33
6 お子さんの一時預かりについて.....	34
7 お子さんの宿泊を伴う一時預かりについて.....	35
8 ファミリーサポートセンターの利用について.....	36
9 子育て支援サービスの認知度・利用意向について.....	37
10 子育てに関する情報入手について.....	38
11 ご家庭の子育てについて.....	39
12 地域での子育て環境について.....	41

I 調査の概要

1 調査の目的

このアンケート調査は、八戸市次世代育成支援行動計画の後期計画（平成 22 年度～平成 26 年度）を策定するにあたり、地域住民の子育て支援に関する実態や意見・要望、今後の保育サービス等のニーズの把握などを主たる目的として実施した。

2 調査の対象

(1) 就学前児童保護者

市内において就学前児童がいる世帯のうち、層化無作為抽出した 1,850 件

(2) 小学校児童保護者

市内において小学校児童がいる世帯のうち、層化無作為抽出した 1,750 件

3 調査の方法

(1) 就学前児童保護者

郵送による配布・回収

(2) 小学校児童保護者

郵送による配布・回収

4 調査の実施時期

平成 21 年 6 月

5 配布・回収の結果

対 象	配布数	有効回答数	有効回答率
(1) 就学前児童	1,850 件	1,021 件	55.2%
(2) 小学校児童	1,750 件	986 件	56.3%

Ⅱ 調査結果のまとめ

* 保護者の就労と子育ての両立に関する現状

ニーズ調査から現在の保護者の就労状況をみると、父親については、就学前児童・小学校児童ともに、フルタイムの就労が圧倒的に多くを占めており（就学前児童：88.0%、小学校児童：75.3%）、帰宅時間については、19時以降に帰宅する割合が全体の6割以上にのぼる。

その中で、就学前児童保護者でフルタイム就労者が育児休業を取得した割合については、わずか0.9%にとどまっている。

母親については、就労していない割合は就学前児童では43.9%（「以前は就労していたが、現在は就労していない」、「これまでに就労したことがない」の合計）、小学校児童では26.8%であり、子どもの年齢が上がるに伴って何らかの仕事に就いていく傾向を示している。

また、就労形態については、就学前児童ではフルタイムがパートタイムよりもやや多く、小学校児童ではほぼ半々となっている。

なお、就学前児童保護者でフルタイム就労者が育児休業を取得した割合については、71.4%を示しており、父親の比率と比較とすると、母親が育児に関して中心的な役割を果たしていることが分かる。

父親の大半がフルタイム労働者であるため、子育てに関わる時間が相対的に少なくなり、その部分を母親が支える傾向があり、子どもの身の回りを世話を主にしているのは誰かという質問では、就学前では主に母親が94.3%であり、小学生では主に母親が91.1%となっている。

また、自由回答では、産休・育休に対する職場の理解の無さ、急な場合の休みの取得など多様な働き方の実現を訴える意見がみられたほか、就労状況の改善のみならず、子育て中の母親の採用の促進、就職活動の支援なども望まれている。

* 職場における子育て支援の現状

ニーズ調査で、就学前児童の保護者のうち、子どもが生まれたときに常勤かつ育児休業を取得しなかった方にその理由を尋ねたところ、母親については「職場環境が取得できにくい状況であった」が34.2%で最も多く、父親については「仕事を優先した」が35.1%で最も多くなっていた。

また、「育児休業制度がなかった」という回答についても、母親で22.8%、父親で16.8%みられた。

企業においては、男性の仕事優先の風潮は今日まで是正されておらず、働き方の見直しもなかなか進んでいない状況にあり、子どもの病気やケガなどの急な場合、夫婦が仕事や時間をやりくりしながら対応しているのが現実である。

この場合、家族や親族がその役割を代替するケースもみられるが、転勤者などは家族や親族の支援はそもそも期待できないほか、核家族化の進展に伴ってこれらの機能も徐々に弱くなっていることが考えられる。

子どもが病気などの際には仕事を気兼ねなく休め、父母による保育所への送り迎えが可能と

なるよう、子育ての時間が十分に確保され、子どもの成長や育児の状況に応じた多様で柔軟な働き方が選択できることが求められている。

職場における子育て支援環境の改善を図る上では、子育てや少子化対策に対する企業側の理解や意識を高め、休暇などを取得しやすい職場の雰囲気づくり、意識改革を進めていくことが求められている。

* 保育サービス等に関する現状

就学前児童に対する保育サービスは主として保育所・幼稚園が、小学生に対しては放課後児童クラブ（仲良しクラブ）がある。

ニーズ調査では、現在、就学前児童の 63.4%は認可保育所や幼稚園等の保育サービスを利用しており、利用する理由としては、保護者の就労が最も多い 68.5%を占めている。

そのため、フルタイムの共働きなど、近年の多様な就労形態に応じ、預かり時間の柔軟化などの対応が保育サービスに求められている。

さらに、一時保育、休日保育、病児・病後児保育、障害児保育などの社会的なニーズも高まってきており（自由回答）、施設側の条件整備と対応も求められている。

また、小学校児童の放課後児童クラブについては、おおむね低学年が利用対象となっており、現在の利用率は 14.7%である。利用する理由としては、保護者の就労がもっとも多く、87.6%を占めており、こちらも保護者の就労と大いに関係している。

ファミリーサポートセンターに関しては、利用率が就学前児童で 1.3%、小学校児童についてはわずか 0.3%という状況となっている。

地域子育て支援拠点事業については、利用率は就学前児童で 8.2%、利用していない理由としては「特に理由はない」（34.3%）を除き、「時間がない」が 16.0%と最も多いものの、以下、「存在を知らなかった」（9.4%）、「サービスの利用方法（手続き等）がわからない」（7.2%）など、サービスの周知が不十分であることに起因する項目が比較的高い数値を示している。

自由回答においては、保育の利用開始時間・終了時間の拡大を求める声、病児・病後児保育の充実を望む声が数多く寄せられた。

放課後児童クラブについては、土日や夏休みや冬休みなどの長期休暇中の対応の充実を望む声が比較的多くあり、サービスの充足度に学校・地域間に差が存在することがうかがえた。

各種保育サービスのメニュー自体はある程度出揃っていると言えるが、保育園や学校など実際に利用される場面において、多様なニーズがあり、個々の利用者の直面している問題の解決の十分な助けとならず、不満となるケースがみられるようである。

* 子育て支援サービスの認知度・利用に関する現状

ニーズ調査から就学前児童保護者のサービスの認知度をみると、「①両親学級、赤ちゃん健康相談・よちよち健康相談」が 89.9%で最も多く、以下、「⑧八戸市子育て応援ブック」（65.5%）、「②親と子の電話相談」（63.2%）の順となっている。

これまでの利用状況では、「①両親学級、赤ちゃん健康相談・よちよち健康相談」が 44.0%

で最も多く、以下、「⑧八戸市子育て応援ブック」(29.0%)、「④幼稚園の未就園児教室や園庭開放」(27.7%)などが比較的多く挙げられている。

今後の利用意向では、「⑧八戸市子育て応援ブック」が47.0%で最も多く、次いで、「④幼稚園の未就園児教室や園庭開放」が41.2%で続いている。

小学校児童保護者のサービスの認知度については、「①児童館」が83.1%で最も多く、次いで、「③家庭児童相談室」が58.4%で続いている。

これまでの利用状況では、「①児童館」が32.7%で最も多く、以下、「⑤八戸市子育て応援ブック」(8.8%)、「②地域子育て支援拠点施設」(8.5%)などが多く挙げられている。

今後の利用意向では、「②地域子育て支援拠点施設」のみが8.8%にとどまっているものの、「①児童館」(25.2%)を筆頭に、軒並み2割程度の利用意向がみられる。

また、子育てに関する情報入手経路については、就学前児童、小学校児童の保護者いずれも、親族や友人・知人など身近な存在を挙げる割合が高くなっている。

前回調査時と比べると、一部を除いたおおよそすべての項目で回答割合が軒並みアップしていることに加え、「情報の入手手段がわからない」の回答割合も低下していることから、情報入手手段が充実・多様化し、子どもを持つ親達に着実に浸透してきている状況がうかがえるが、自由回答では、パソコンがない人向けにホームページ以外の情報発信の充実、携帯電話の情報サイトの充実、若い世代向けに町内会の回覧板以外の情報提供、学校を通じた情報提供の充実など、提供方法・媒体に関してさまざまな意見・希望が寄せられた。

また、事業の内容をよく知らないので、サービス一覧冊子の配布を求める意見もあった。

サービスによっては存在自体を知らない者も多く、それに伴って利用者が極めて限られているサービスも依然として存在する。

* 子育て環境・教育環境に関する現状

ニーズ調査では、子どもと外出する際の困難な点について、就学前児童・小学校児童保護者いずれもから、「雨や雪の日に遊ぶ場所が少ないこと」が最も多く挙げられている（就学前児童：60.1%、小学校児童：57.9%）。

そのほか、就学前児童では「交通機関や建物、歩道の段差などがベビーカーでの移動に配慮されていないこと」(32.6%)、「トイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていないこと」(30.4%)、「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配であること」(24.9%)、小学校児童では「暗い通りや見通しのきかないところが多く子どもが犯罪の被害にあわないか心配であること」(51.7%)、「緑や広い歩道が少ない等、まちなみにゆとりとうるおいがないこと」(27.1%)、「歩道や信号がない通りが多く、安全に心配があること」(26.4%)などが多く挙げられている。

また、子育てをしていくうえで地域に期待することを尋ねたところ、就学前児童では「休日・夜間・緊急時等の医療体制が整っていること」が75.3%と最も多く、次いで、「地域の治安・防犯体制が整備されていること」(63.0%)、「子どもが安心して通園できること」(60.5%)などが多く挙げられている。

小学校児童では、「子どもが安心して通学できること」が69.9%と最も多く、以下、「休日・夜間・緊急時等の医療体制が整っていること」(61.2%)、「地域の治安・防犯体制が整備され

ていること」(59.7%)、「いたずらや危険なことをしていたら、注意や報告をしてくれること」(47.3%)なども多く挙げられている。このように、就学するようになると、親から離れて子どもが一人で行動するケースも多くなることから、安全や防犯の関心が高まってくるようである。

なお、自由回答においては、公園の遊具の充実、雨の日や冬季でも体を動かして遊べる屋内施設を望む回答は、自由回答全体を通してみてもかなりの割合を占めた。

また、祖父母世代と子どもとの世代間交流、子育ての先輩の知恵を借りたいという声も寄せられている。

* 地域における子育て支援の現状

ニーズ調査では、地域に期待することとして、就学前児童保護者の41.8%から「温かく見守ってくれること」が挙げられており、前回調査時と比べて13.5ポイントも多くなっていることから、近年、周囲の子育て環境の向上を望む親が多くなっていることがうかがえる。

また、子育ての悩みを解決する方法としては、「誰かに話す」が就学前児童、小学校児童いずれの保護者からも圧倒的に多く挙げられている(就学前児童:86.4%、小学校児童:85.2%)ことから、身近で支えとなる存在を望んでいることがうかがえる。

自由回答においては、子ども連れの親には温かく接してほしい、昔のように子どもの顔を覚えて近所で見守ってもらいたいなどの意見もみられた。

地域の子どもを地域で見守り育てるという意識は年々希薄化しているようであるが、この傾向は、八戸市だけにみられるものではなく、現在、社会全体で子どもを育てていくという意識が弱くなっていることが背景に考えられる。

* 特別な支援が必要な児童への支援の現状

ニーズ調査では、子育てに関して日常悩んでいることとして、就学前児童保護者の39.4%、小学校児童保護者の29.3%から「子どもを叱りすぎているような気がする」と挙げられている。

子育ての悩みを解決する方法としては、就学前児童保護者の3.4%、小学校児童保護者の3.0%から「子どもにやっあたりをする」、就学前児童保護者の0.2%、小学校児童保護者の0.3%から「虐待をすることがある」という回答が得られた。

近年、虐待に関する相談件数が増えていることから、子どもとの接し方について悩む親の姿がうかがえる。

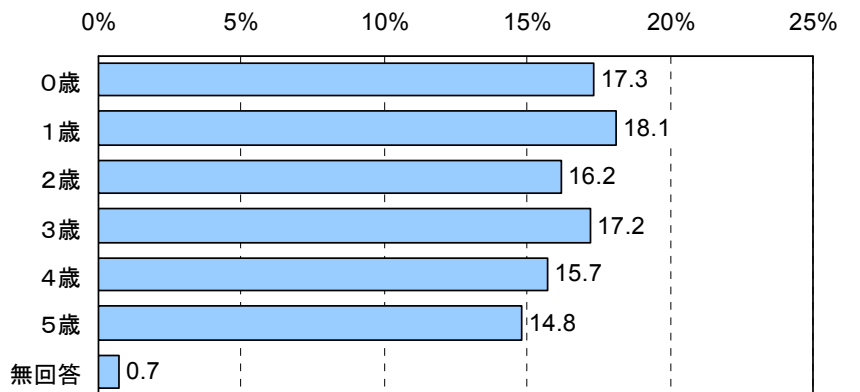
また、今回の調査では、特別な支援が必要な児童への調査項目が少なかったが、自由回答において、ひとり親家庭(父子も含む)、障がい児がいる家庭への支援の充実を望む声も多く寄せられた。

Ⅲ 就学前児童調査結果

1 お子さんのご家族の状況について

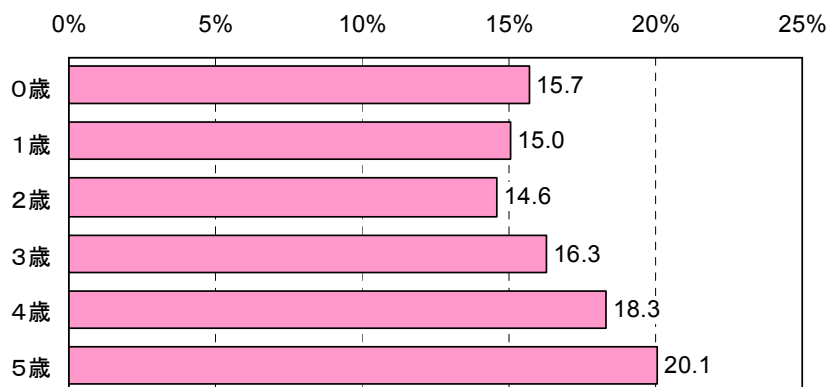
問 お子さんの**生年月日**をお伺いします。

●今回の調査



(回答該当者: 1,021人)

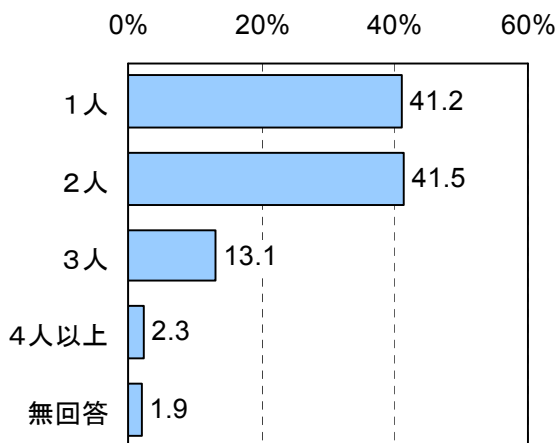
●前回の調査



(回答該当者: 1,191人)

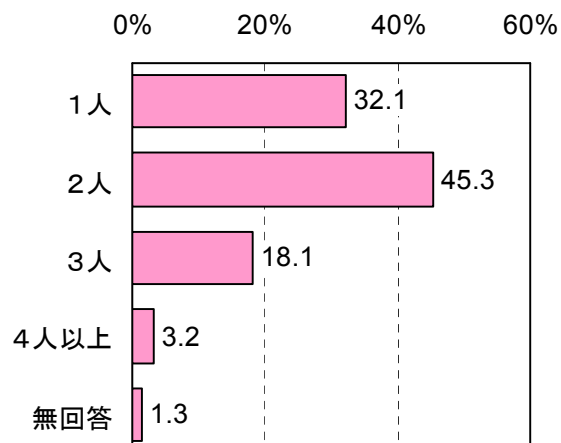
問 お子さんは何人いらっしゃいますか。

●今回調査



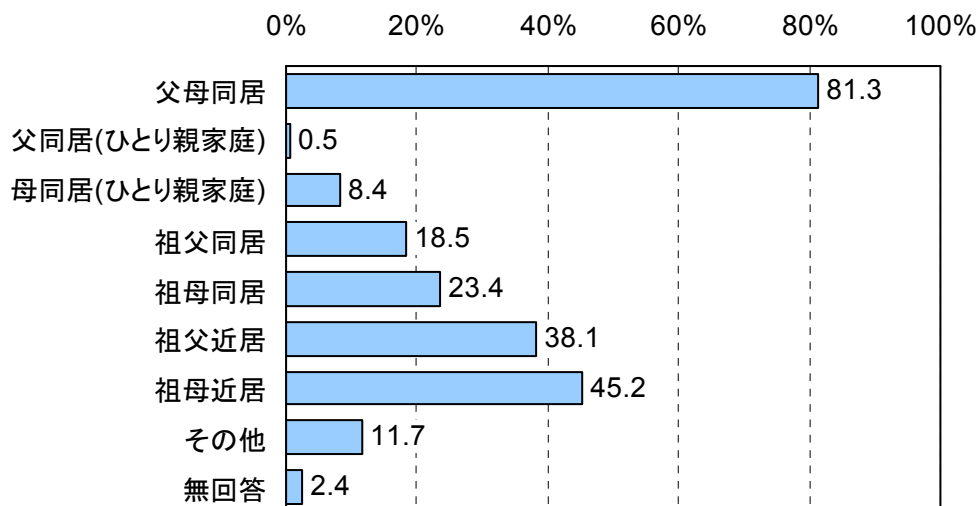
(回答該当者: 1,021人)

●前回調査



(回答該当者: 1,191人)

問 お子さんご家族の同居・近居(おおむね30分以内程度に行き来できる範囲)の状況について。



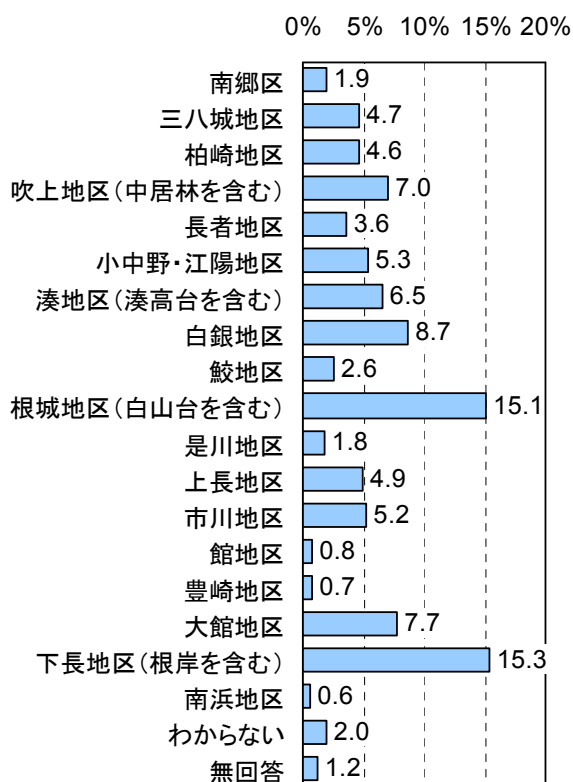
(回答該当者: 1,021人)

子どもの家族構成では、81.3%が「父母同居」と回答している。また、「祖父同居」、「祖母同居」は2割前後、「祖父近居」、「祖母近居」は4割前後となっている。

一方、ひとり親家庭(「父同居(ひとり親家庭)」(0.5%)、「母同居(ひとり親家庭)」(8.4%)の合計)は全体の8.9%を占めており、前回の調査時の4.4%と比べると比較的多い(4.5%増)サンプル構成となっている。

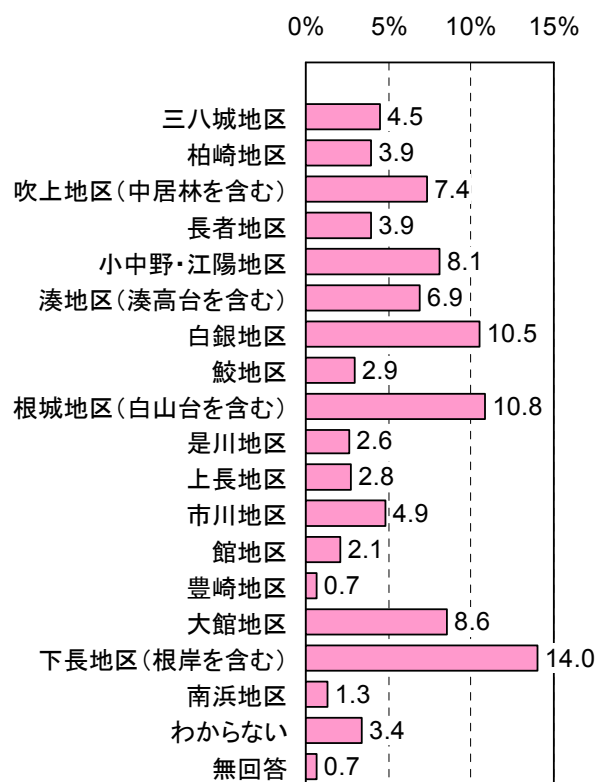
問 お住まいの地区として**あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。**

●今回調査



(回答該当者: 1,021人)

●前回調査

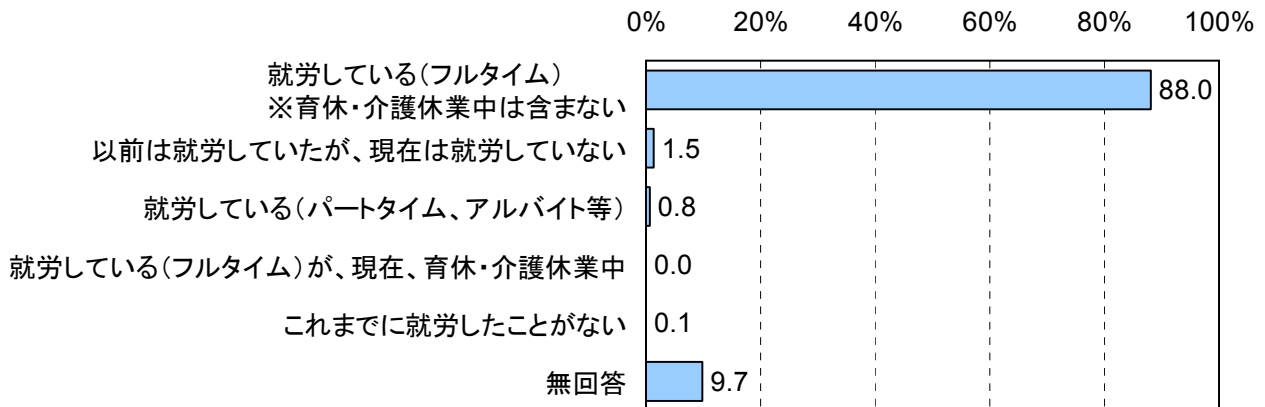


(回答該当者: 1,191人)

2 お子さんの親御さんの就労状況について

問 現在の就労状況を(自営業、家族従事者を含む)お伺いします。

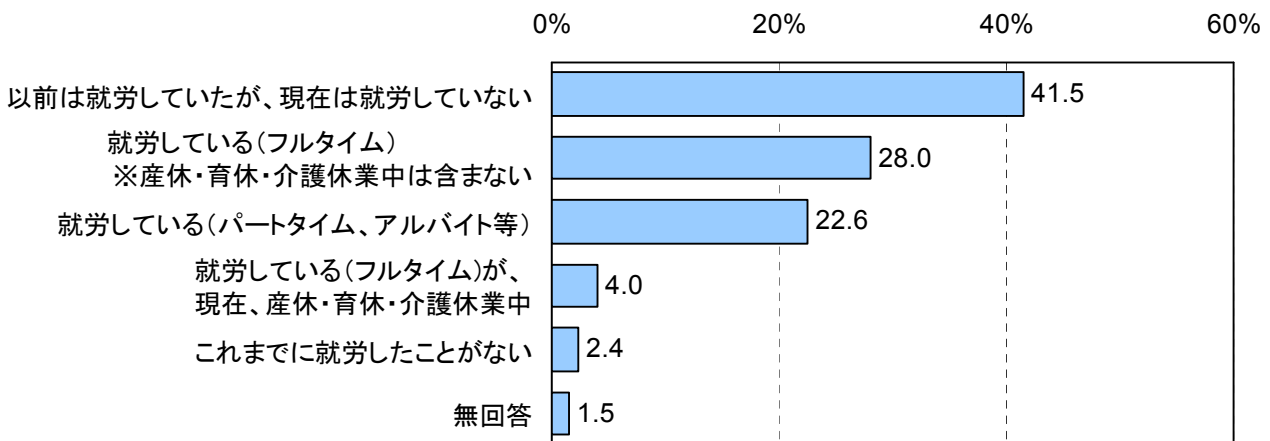
(1) 父親 【母子家庭の場合は記載不要】



(回答該当者:1,021人)

父親の現在の就労状況では、「就労している(フルタイム)※育休・介護休業中は含まない」が圧倒的に多く、88.0%を占めている。

(2) 母親 【父子家庭の場合は記載不要】

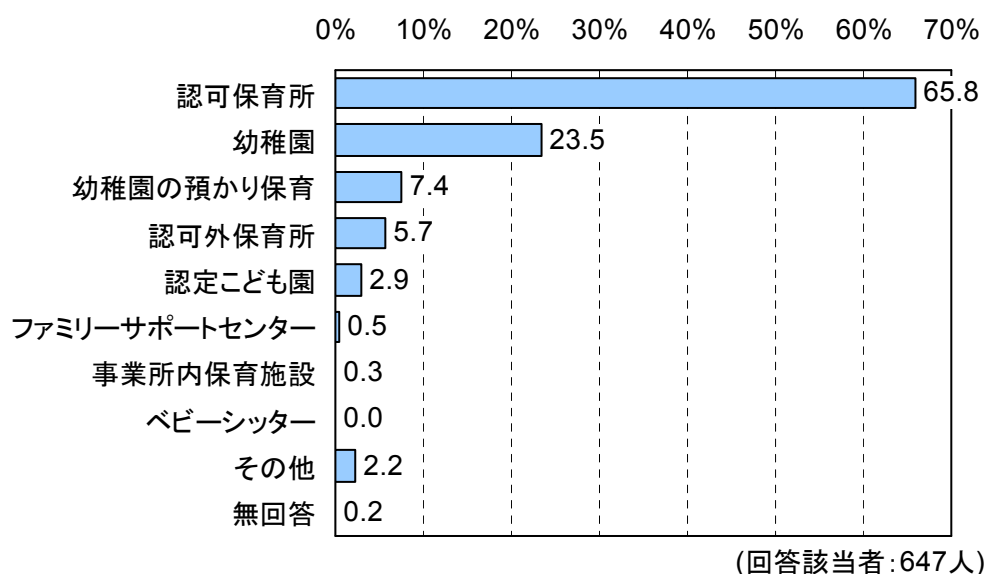
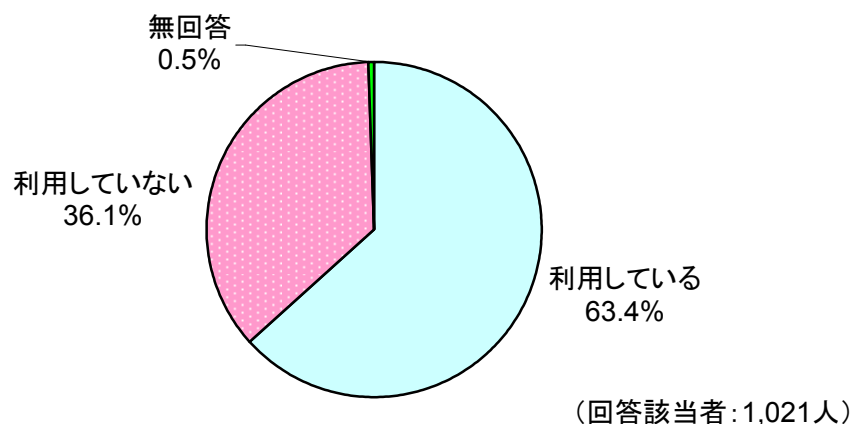


(回答該当者:1,021人)

母親の現在の就労状況では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が41.5%であり、「就労している(フルタイム)※産休・育休・介護休業中は含まない」(28.0%)、「就労している(パートタイム、アルバイト等)」(22.6%)を合わせた50.6%が現在就労していることが分かる。

3 保育サービスの利用について

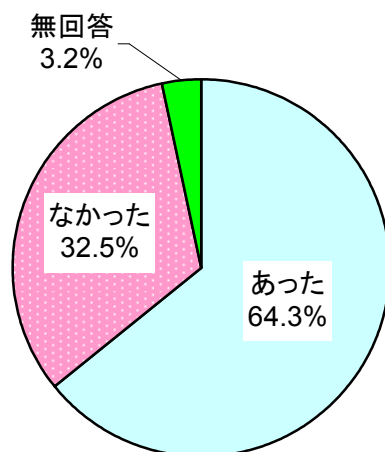
問 現在の保育サービスの利用の有無についてお伺いします。日頃、定期的にお子さんを預けるサービスを利用していますか。また、現在、どのような子育て支援サービスを利用していますか。



現在どのような子育て支援サービスを利用しているか尋ねたところ、「認可保育所」が65.8%で最も多く、次いで「幼稚園」(23.5%)、「幼稚園の預かり保育」(7.4%)、「認可外保育所」(5.7%)などの順となっている。

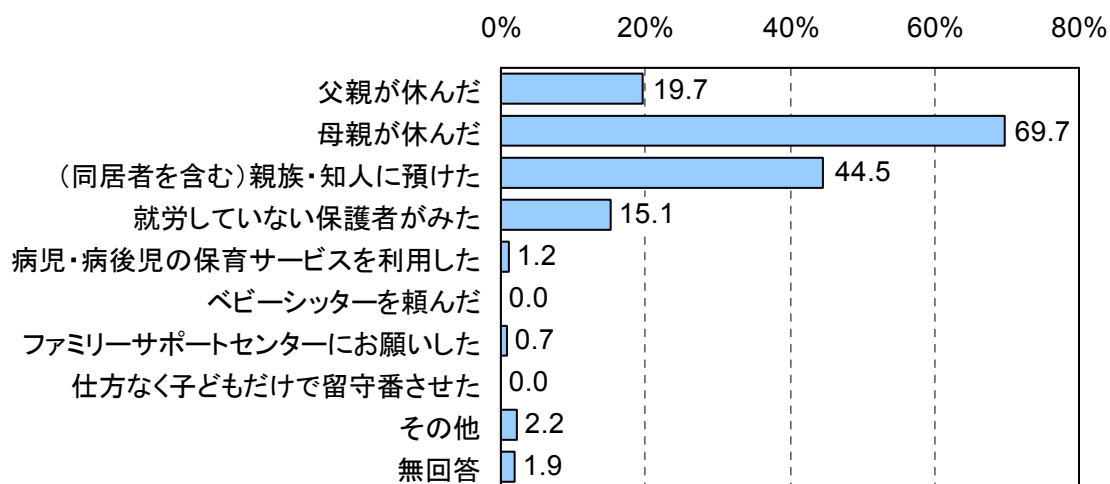
4 お子さんの病児・病後児保育について

問 保育サービスを利用している保護者の方にお伺いします。この1年間に、お子さんが病気やけがで通常の保育サービスを利用できなかったことがありますか。お子さんが病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかった場合の対処方法は。



(回答該当者:647人)

子どもが病気やケガで通常のサービスを利用できなかったことがあったか尋ねたところ、「あった」が64.3%、「なかった」が32.5%となっている。

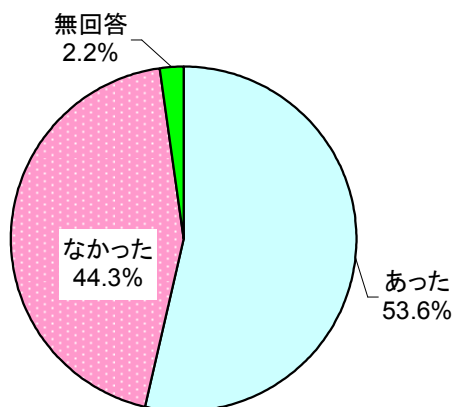


(回答該当者:416人)

子どもが病気やケガで通常のサービスを利用できなかった時の対処法では、「母親が休んだ」が69.7%と最も多く、以下、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」(44.5%)、「父親が休んだ」(19.7%)などの順となっている。

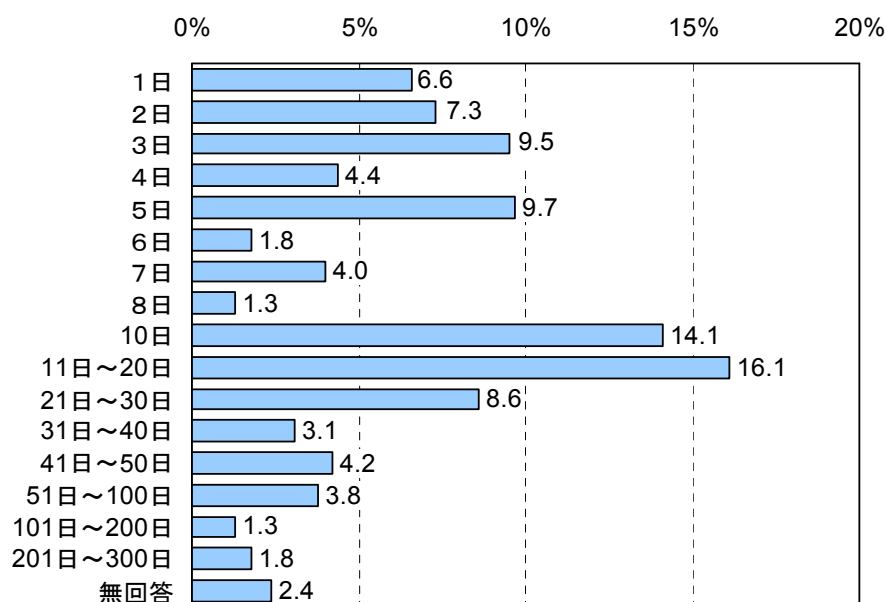
5 お子さんの一時預かりについて

問 この1年間で、お子さんの面倒を普段みている方が、私用やリフレッシュ目的、就労のため、お子さんを一時的に誰かに預けたことはありましたか。



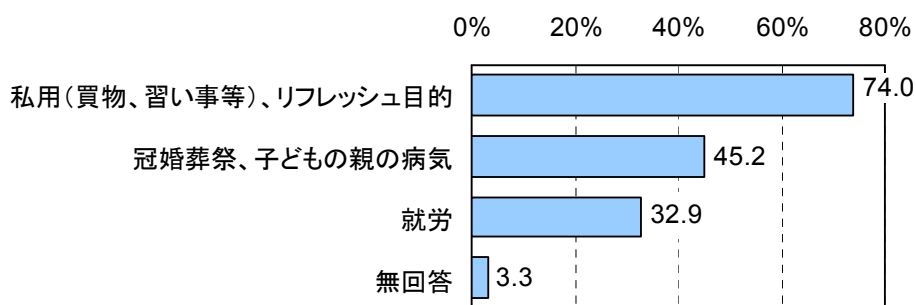
(回答該当者:451人)

・ 年間の日数



(回答該当者:547人)

・ 理由別



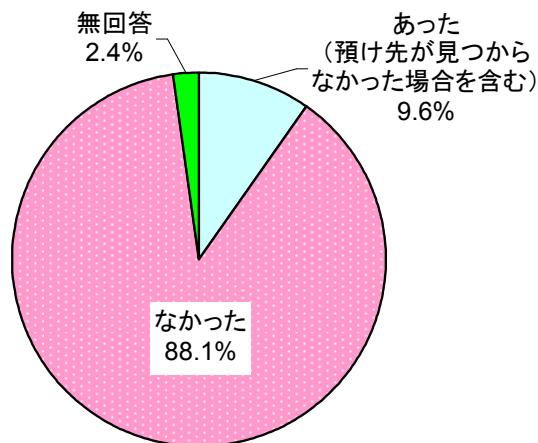
(回答該当者:547人)

1年間に私用やリフレッシュ目的等で子どもを家族以外に預けたことがあったか尋ねると、「あった」が53.6%、「なかった」が44.3%となっている。

また、子どもを家族以外に預けたことが「あった」と回答した方に、その日数を尋ねたところ、年間10日～20日程度という回答が全体の3割程度を占めた。

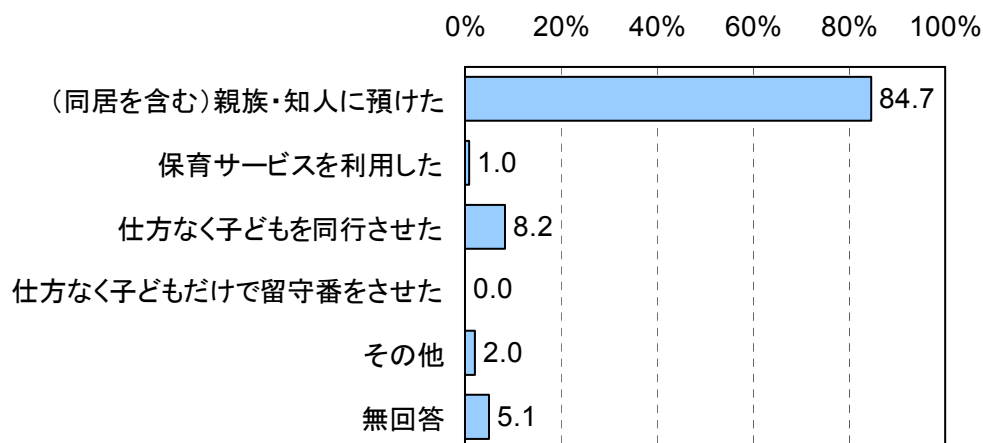
6 お子さんの宿泊を伴う一時預かりについて

問 この1年間に保護者の用事等により、お子さんを泊りがけで家族以外に預けなければならないことはありましたか。その時の対処方法は。



(回答該当者:1,021人)

1年間に保護者の用事等により、子どもを泊まりがけで預けなければならないことがあったか尋ねると、「あった (預け先が見つからなかった場合を含む)」が 9.6%、「なかった」が 88.1%となっている。

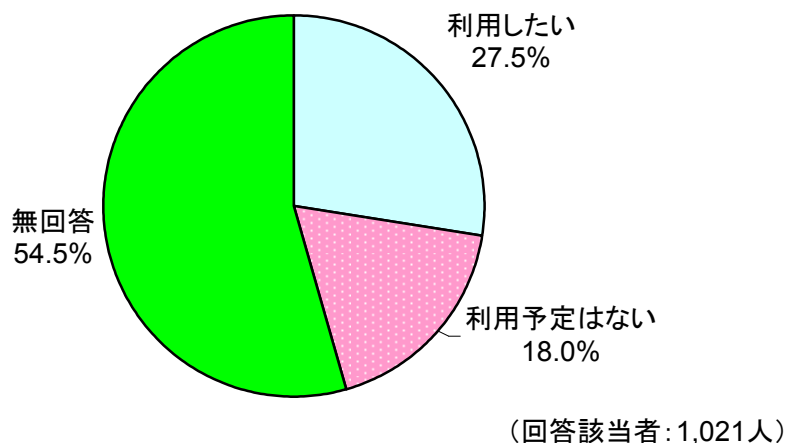


(回答該当者:98人)

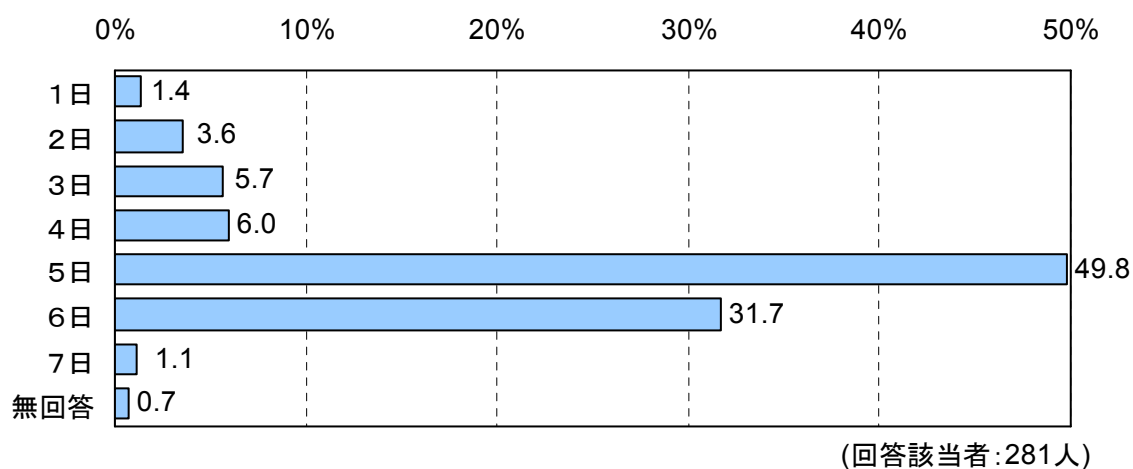
1年間に保護者の用事等により、子どもを泊まりがけで預けなければならなかった時の対処法では、「(同居を含む) 親族・知人に預けた」が 84.7%と圧倒的に多い回答となっている。

7 放課後児童クラブの利用について

問 小学校入学移行の放課後の過ごし方について、放課後児童クラブを利用したいと思いますか。利用希望がある場合は、あわせて週あたりの日数を記入してください。



・ 1週あたりの利用希望日数

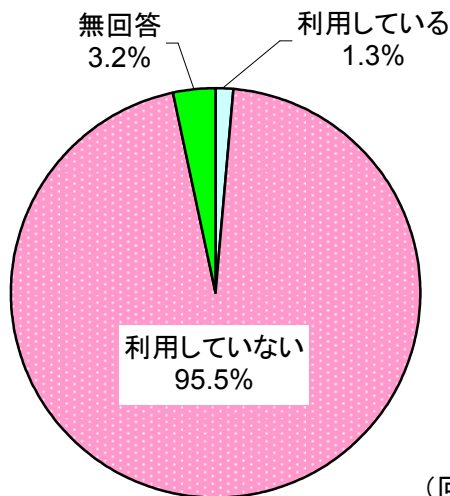


小学校入学以降、放課後児童クラブ（仲良しクラブ）の利用意向はあるか尋ねたところ、「利用したい」が27.5%を占めている。

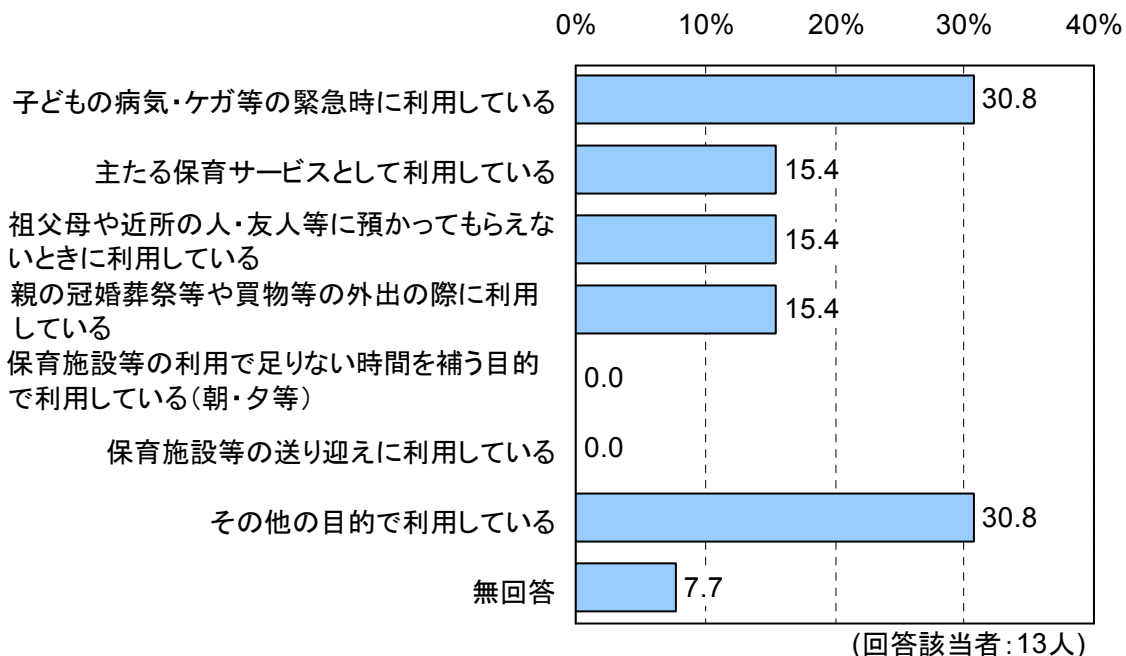
また、1週あたりの利用希望日数では、「5日」が49.8%、「6日」が31.7%などの回答が多くみられる。

8 ファミリーサポートセンターの利用について

問 ファミリーサポートセンターを利用していますか。どのような目的で利用していますか。



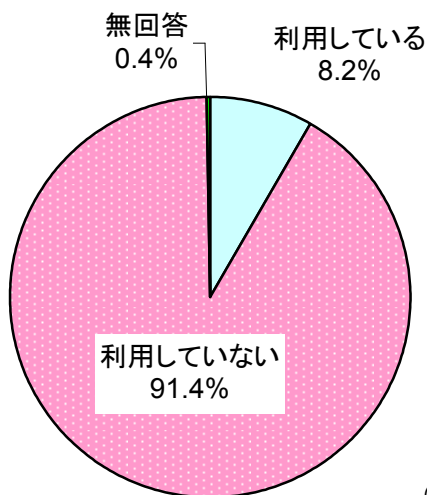
ファミリーサポートセンターを利用しているか尋ねたところ、「利用している」が1.3%、「利用していない」が95.5%となっている。



ファミリーサポートセンターの利用者は13人おり、その利用目的については、「子どもの病気・ケガ等の緊急時に利用している」が30.8%と最も多くなっている。

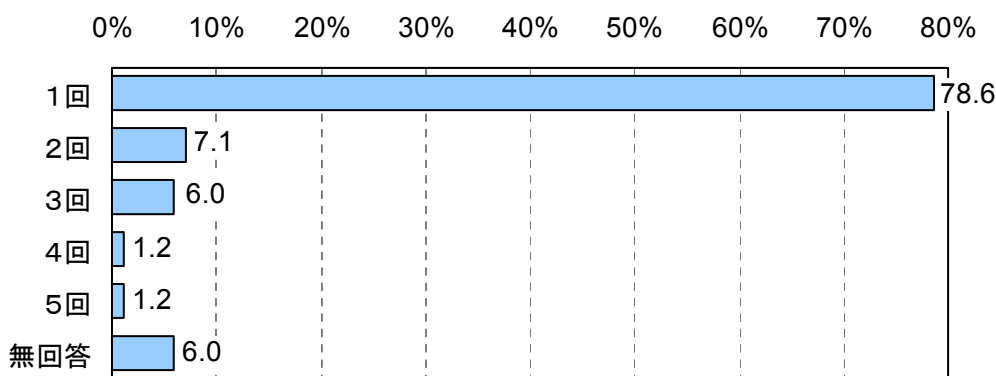
9 地域子育て支援拠点事業について

問 現在、地域子育て支援拠点事業(親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、つどいのひろば、子育て支援センター等と呼ばれています)を利用していますか。また、おおよその利用回数(頻度)を記入してください。



(回答該当者: 1,021人)

・ 1週あたりの利用希望日数



(回答該当者: 84人)

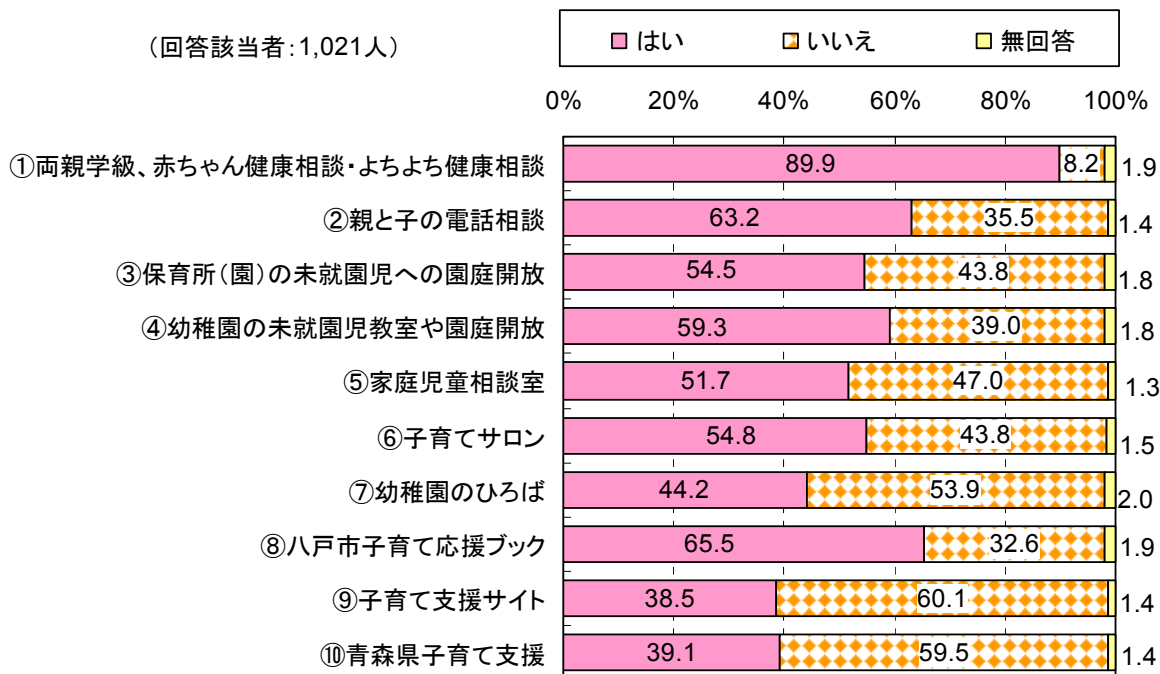
地域子育て支援拠点事業を利用しているか尋ねたところ、全体の8.2%が「利用している」と回答している。

利用者の1週あたりの利用回数については、「1回」が78.6%で圧倒的に多くなっている。

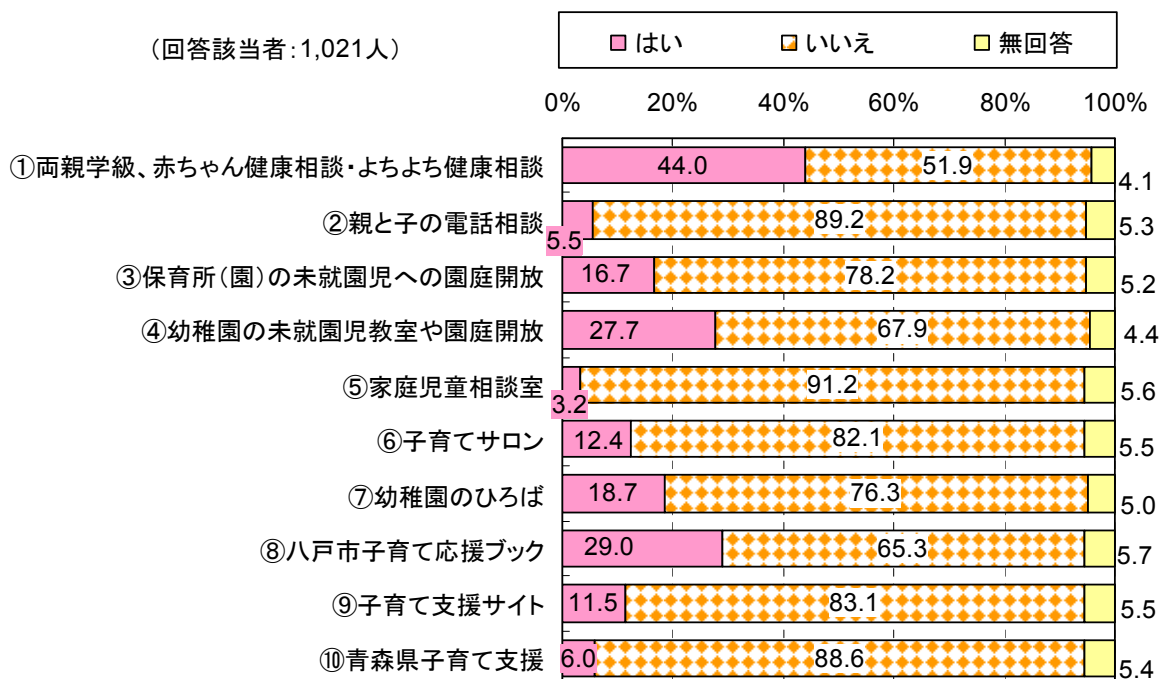
10 子育て支援サービスの認知度・利用度について

問 下記のサービスを知っていたり、これまでに利用したことはありますか。

A サービスを知っているか



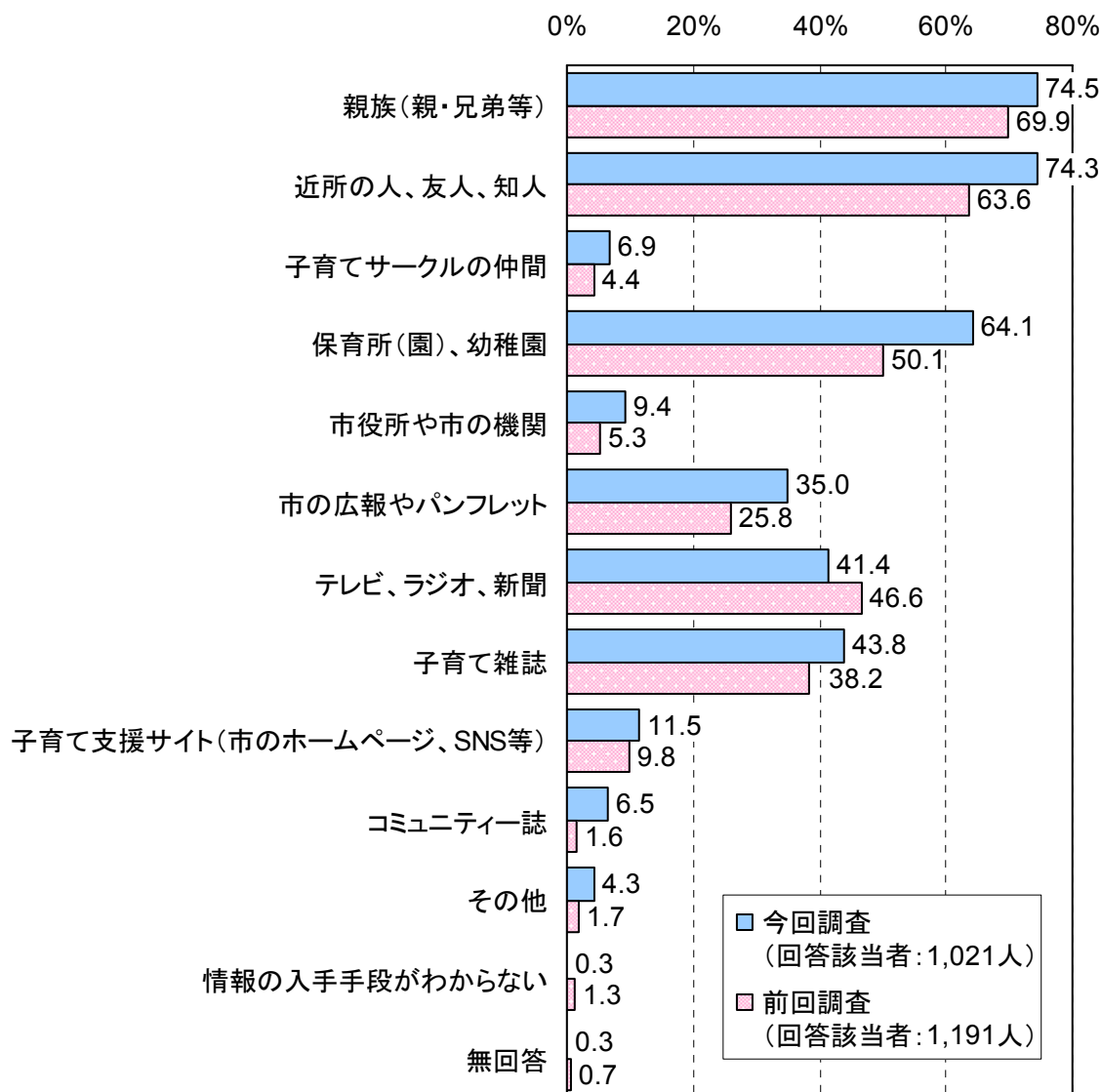
B サービスをこれまでに利用したことがあるか



サービスの認知度については、「①両親学級、赤ちゃん健康相談・よちよち健康相談」が89.9%で最も多く、サービスのこれまでの利用状況についても、「①両親学級、赤ちゃん健康相談・よちよち健康相談」が44.0%で最も多い。

1.1 子育てに関する情報入手について

問 あなたは子育てに関する情報をどのようにして入手していますか。

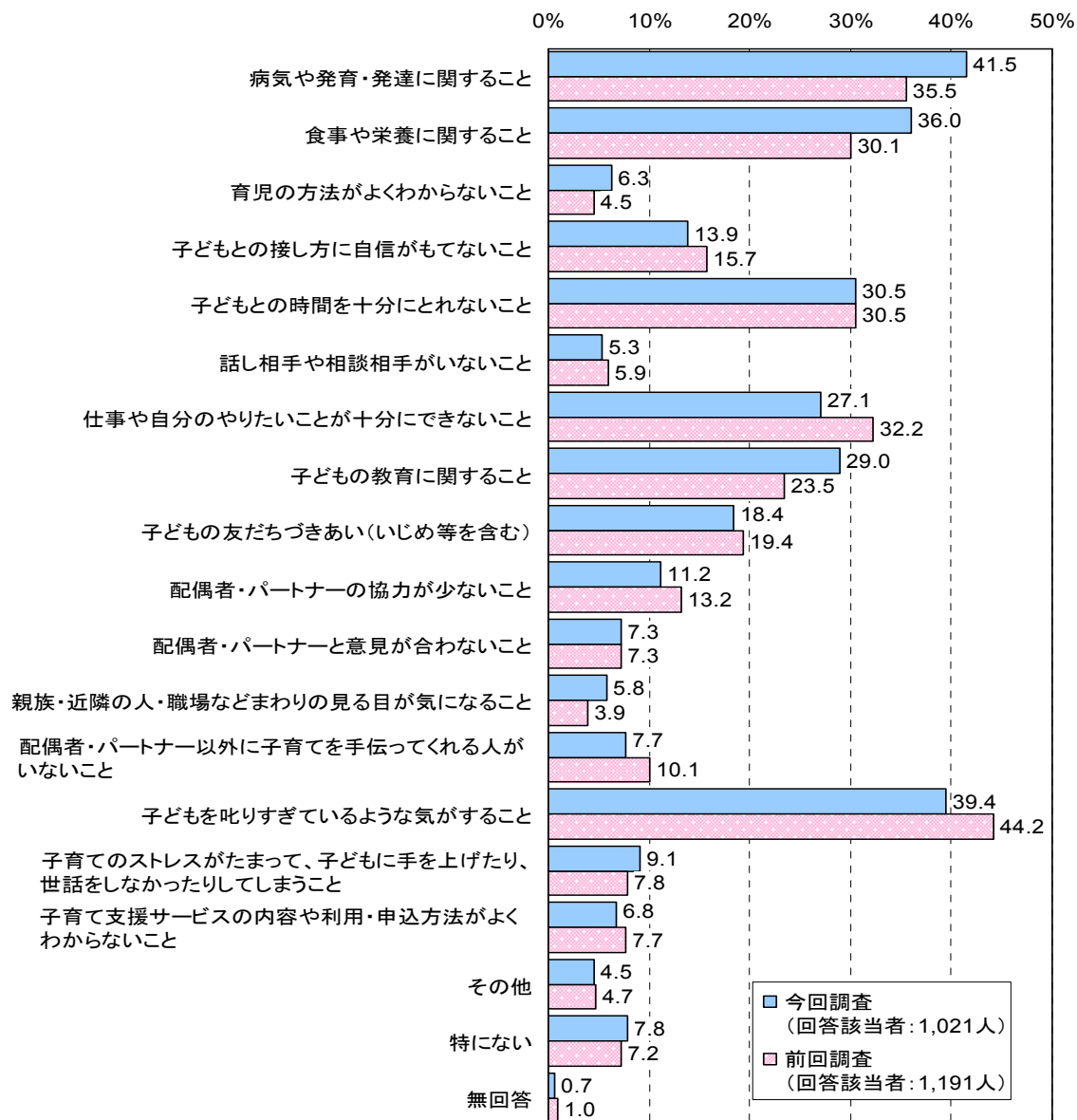


今回の調査結果において、子育てに関する情報の入手先では、「親族(親、兄弟等)」(74.5%)、「近所の人、友人、知人」(74.3%)といった身近な人たちを挙げる割合が圧倒的に高くなっている。次いで、「保育所(園)、幼稚園」が64.1%で続いている。

前回調査時と比べると、「テレビ、ラジオ、新聞」を除くすべての項目で回答割合が軒並みアップしている。これに加え、「情報の入手手段がわからない」の回答割合も低下していることから、情報入手手段が充実・多様化し、子どもを持つ親達に着実に浸透してきている状況がうかがえる。

12 ご家庭の子育てについて

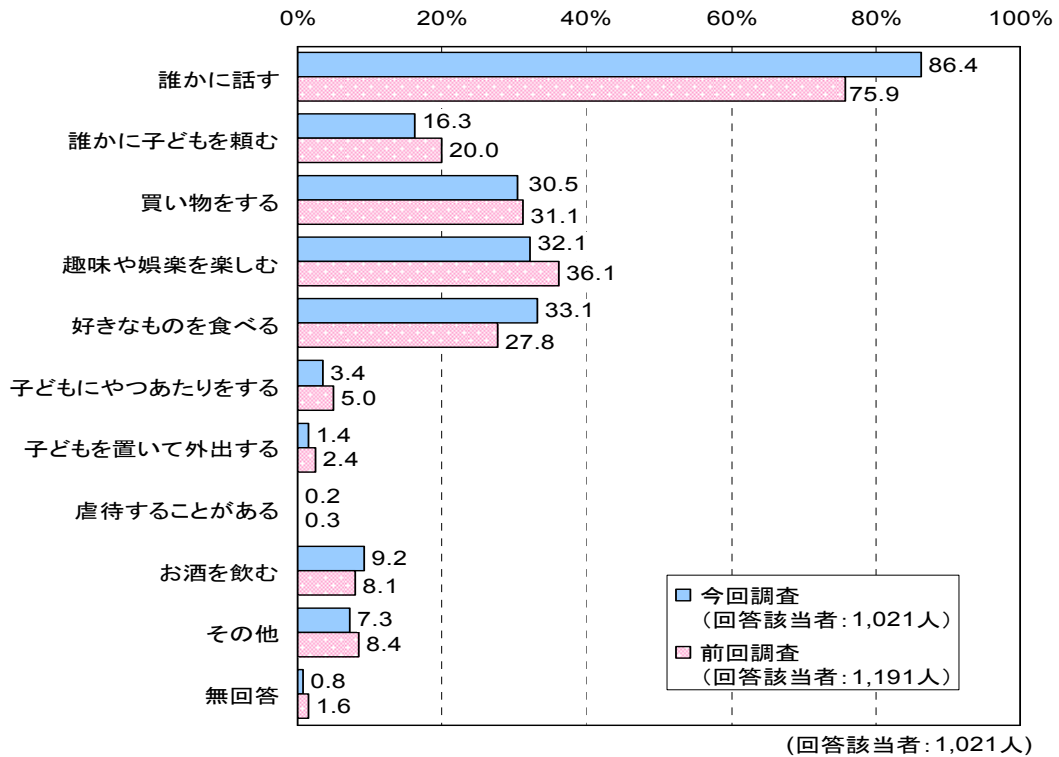
問 子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることについて。



今回の調査結果において、子育てに関する日常の悩みの内容では、「病気や発育・発達に関すること」が41.5%と最も多く、以下、「子どもを叱りすぎているような気がする」(39.4%)、「食事や栄養に関すること」(36.0%)、「子どもとの時間を十分にとれないこと」(30.5%)などの順となっている。

前回調査時と比べると、「病気や発育・発達に関すること」、「食事や栄養に関すること」、「子どもの教育に関すること」の各回答割合は5ポイント以上増加しているが、「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」、「子どもを叱りすぎているような気がする」の回答割合については、反対に5ポイント程度減少していることが分かる。

問 子育ての悩みを解決する方法はどんなことですか。

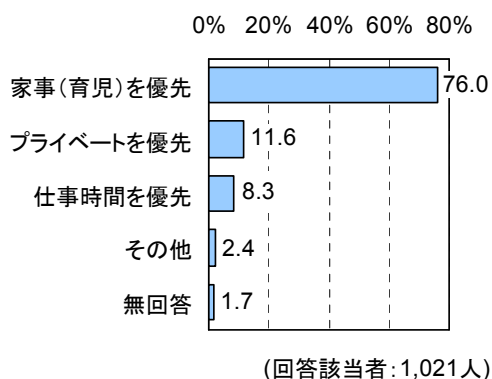


今回の調査結果では、子育ての悩みを解決する方法としては、「誰かに話す」が86.4%で圧倒的に多く、以下、「好きなものを食べる」(33.1%)、「趣味や娯楽を楽しむ」(32.1%)、「買い物をする」(30.5%)なども比較的多く挙げられている。

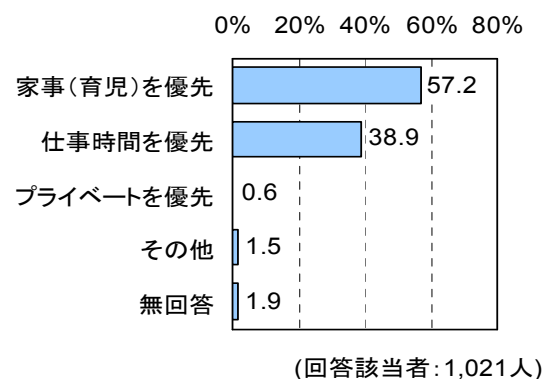
前回調査時と比べると、各項目の回答割合については減少しているものが多いが、「誰かに話す」、「好きなものを食べる」、「お酒を飲む」については回答割合が増加していることが分かる。

問 生活の中の「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの時間」の優先度について。

・ A. 希望



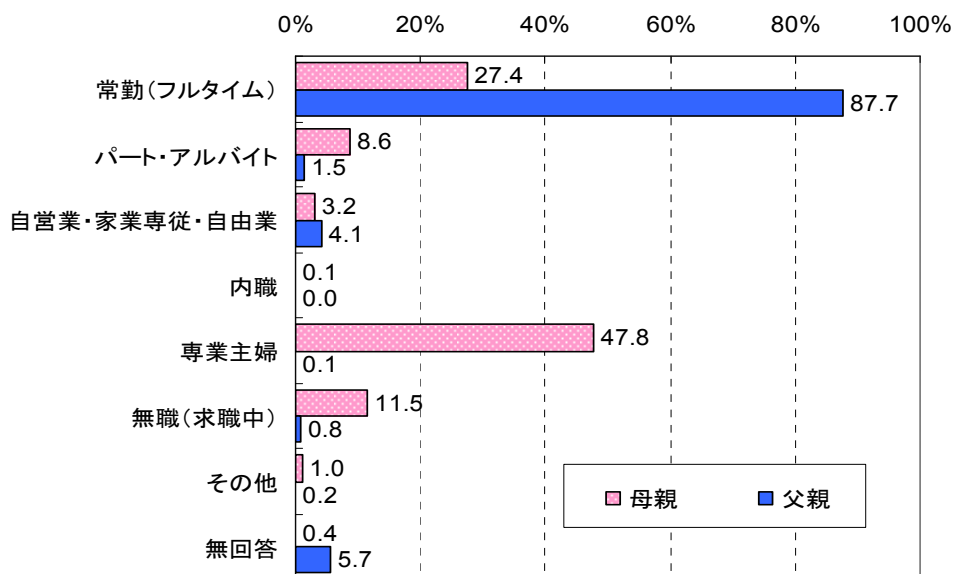
・ B. 現実



仕事時間、家事・プライベート時間の優先度について、A. 希望とB. 現実を比較すると、「家事(育児)を優先」がともに最も多い点では共通しているが、希望では76.0%、現実では57.2%となっており、希望のほうが現実よりも20ポイント程度高いことが分かる。また、希望では、「プライベートを優先」が11.6%で2番目に多く挙げられているが、現実では「仕事時間を優先」が38.9%で2番目に多くなっている。

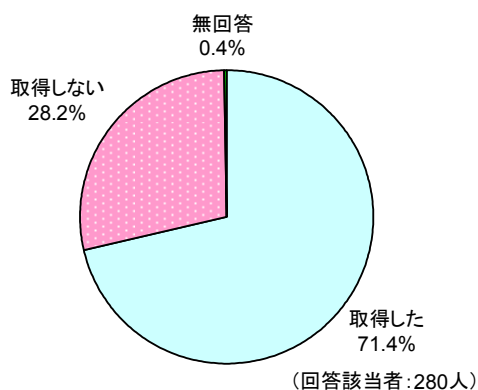
1.3 保護者の就労状況と育児休業制度の利用について

問 お子さんが生まれたときの就労状況と育児休業取得の有無、その期間について



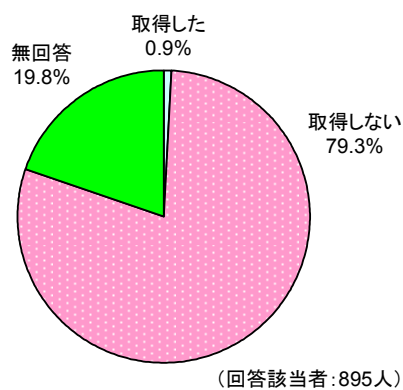
(回答該当者: 1,021人)

<母親>



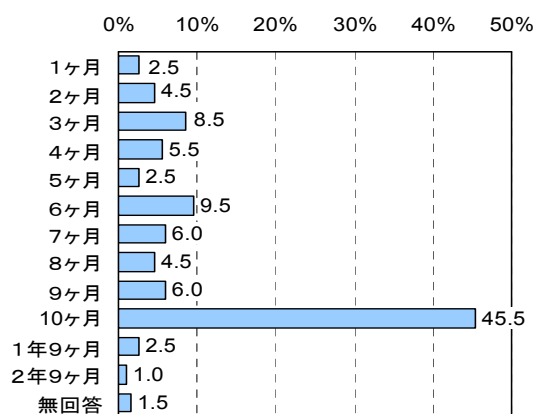
(回答該当者: 280人)

<父親>



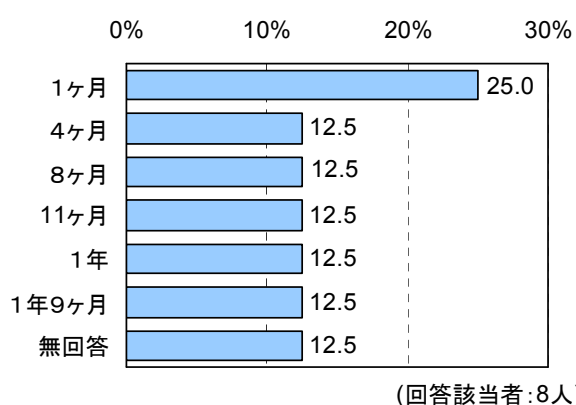
(回答該当者: 895人)

・ 育児休業期間 (母親)



(回答該当者: 200人)

・ 育児休業期間 (父親)

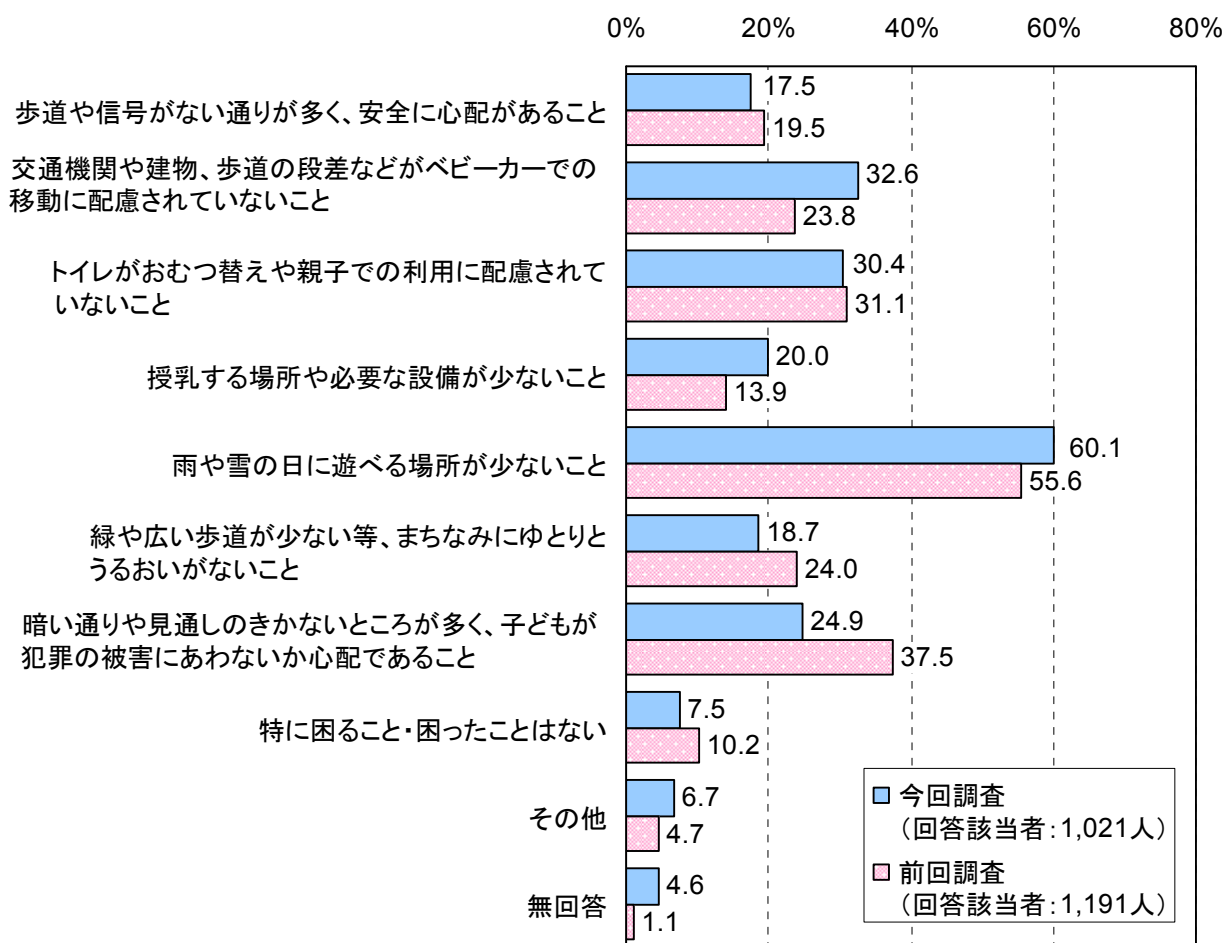


(回答該当者: 8人)

お子さんが生まれたとき常勤であった方の育児休業制度の利用状況では、母親については育児休業を「取得した」割合は71.4%を占め、育児休業期間は「10ヶ月」が45.5%で最も多くなっている。一方、父親については「取得した」割合はわずか0.9%、育児休業期間は「1ヶ月」が25.0%で最も多くなっている。

1.4 地域での子育て環境について

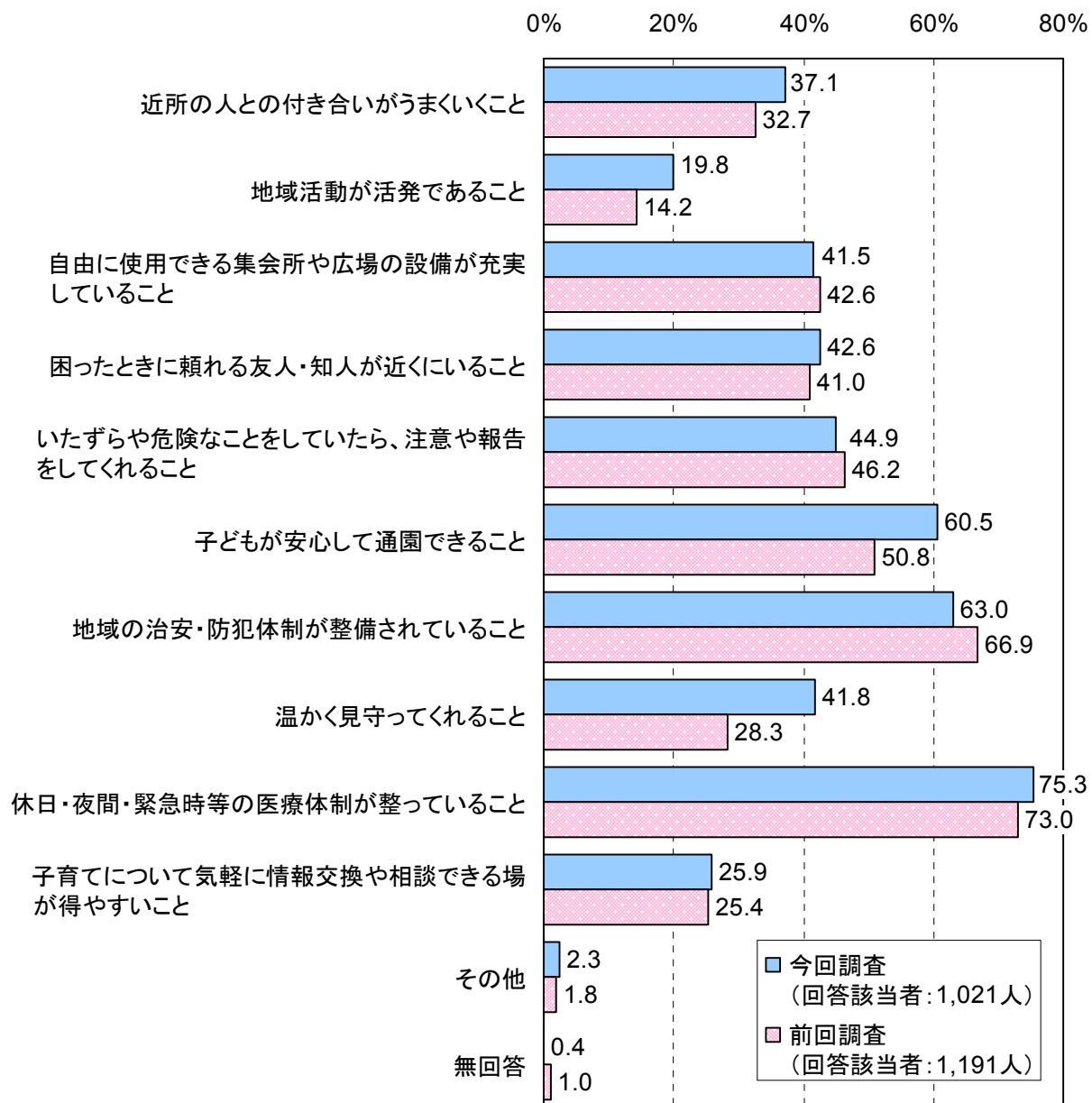
問 子どもとの外出の際、困ること・困ったことは何ですか。(主なものを3つ)



今回の調査結果では、子どもと外出する際の困難な点について、「雨や雪の日に遊べる場所が少ないこと」が60.1%で圧倒的に多く、以下、「交通機関や建物、歩道の段差などがベビーカーでの移動に配慮されていないこと」(32.6%)、「トイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていないこと」(30.4%)、「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配であること」(24.9%)などが上位に挙げられている。一方、7.5%は「特に困ること・困ったことはない」と回答している。

前回調査時と比べると、「交通機関や建物、歩道の段差などがベビーカーでの移動に配慮されていないこと」、「授乳する場所や必要な設備が少ないこと」、「雨や雪の日に遊べる場所が少ないこと」の各回答割合は増加しているが、反対に「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配であること」については、10ポイント以上減少している。

問 子育てをしていくうえで地域に期待することは何ですか。



今回の調査結果では、子育てをしていくうえで地域に期待することを尋ねたところ、「休日・夜間・緊急時等の医療体制が整っていること」が75.3%と最も多く、次いで、「地域の治安・防犯体制が整備されていること」(63.0%)、「子どもが安心して通園できること」(60.5%)などが多く挙げられている。

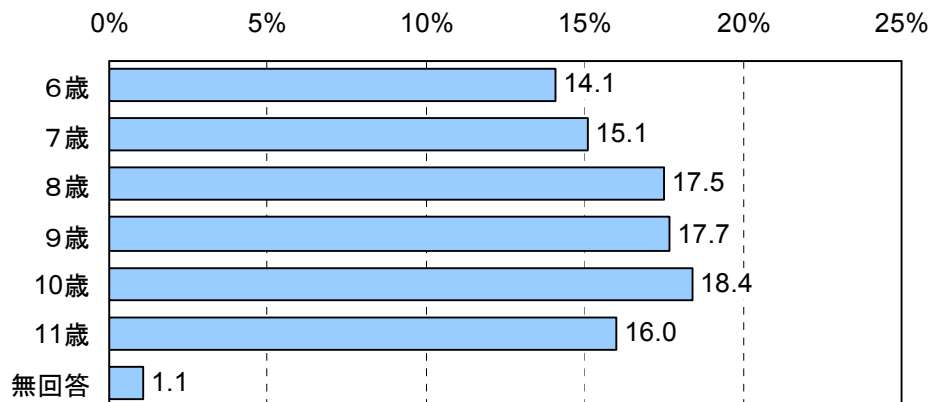
前回調査時と比べると、回答割合が増加している項目が全体的に多い中で、特に「温かく見守ってくれること」は13.5ポイントも上昇していることから、近年、周囲の子育て環境の向上を望む親が多くなっていることがうかがえる。一方、「地域の治安・防犯体制が整備されていること」、「いたずらや危険なことをしていたら、注意や報告をしてくれること」、「自由に使用できる集会所や広場の設備が充実していること」の回答割合については若干減少している。

IV 小学校児童調査結果

1 調査対象のお子さんご家族の状況について

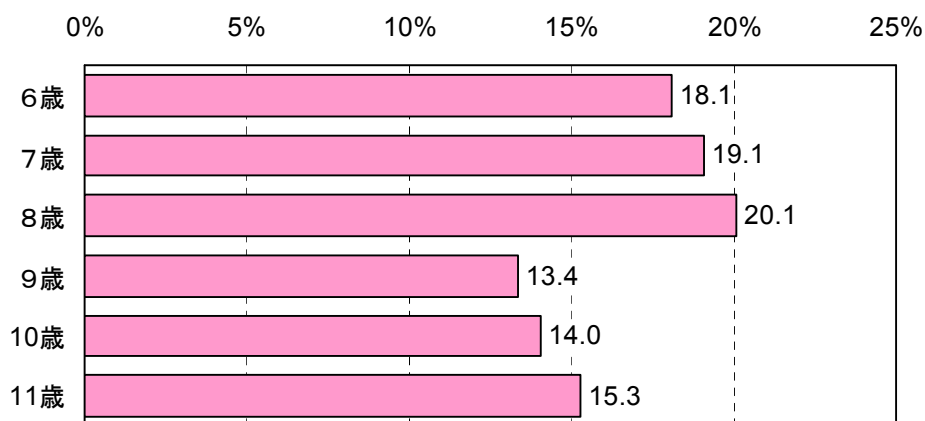
問 お子さんの生年月日をお伺いします。

●今回の調査



(回答該当者: 986人)

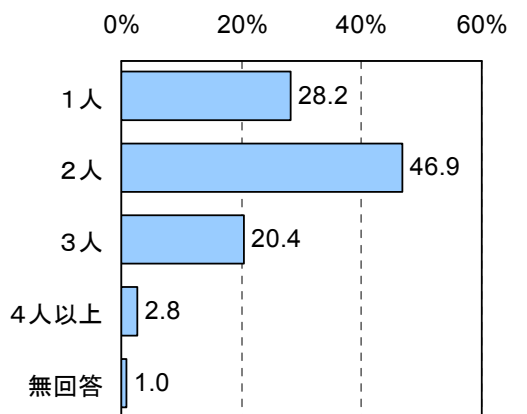
●前回の調査



(回答該当者: 1,204人)

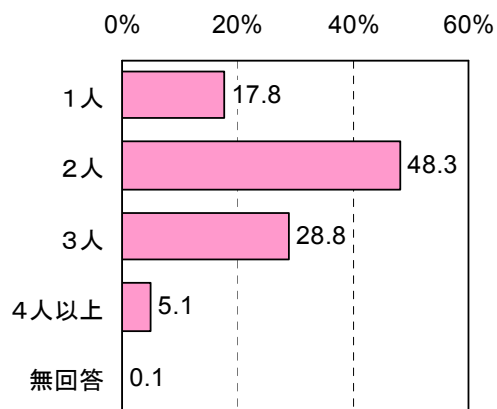
問 お子さんは何人いらっしゃいますか。

●今回調査



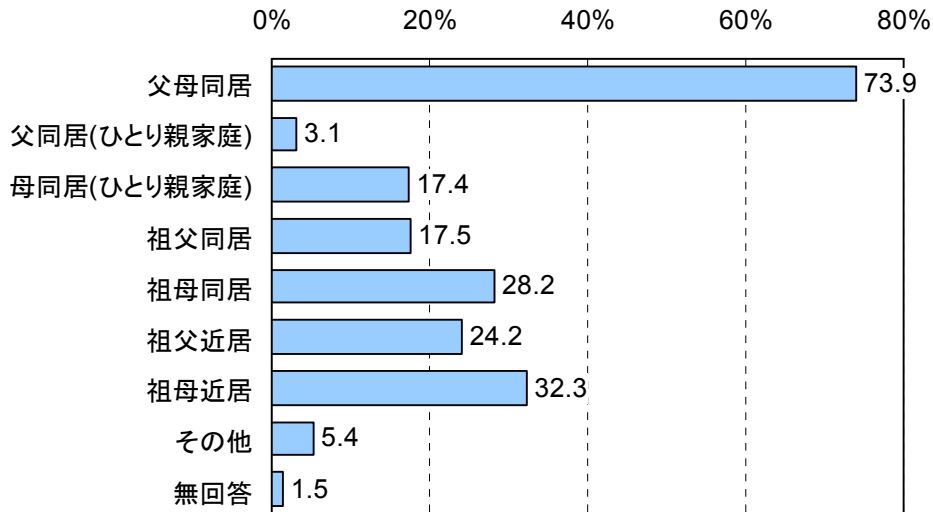
(回答該当者: 986人)

●前回調査



(回答該当者: 1,204人)

問 お子さんと同居・近居（おおむね30分以内程度に行き来できる範囲）の状況について。

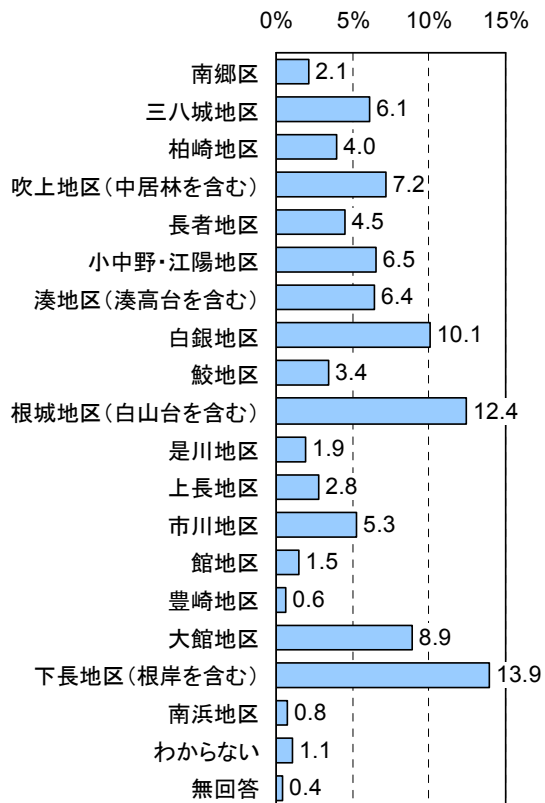


(回答該当者:986人)

子どもの家族構成では、73.9%が「父母同居」と回答している。また、「祖父同居」は17.5%、「祖母同居」は28.2%、「祖父近居」は24.2%、「祖母近居」は32.3%をそれぞれ占めている。一方、ひとり親家庭（「父同居」(3.1%)、「母同居」(17.4%)の合計)は全体の20.5%を占めており、前回の調査時の10.1%と比べると比較的多い(10.4%増)サンプル構成となっている。

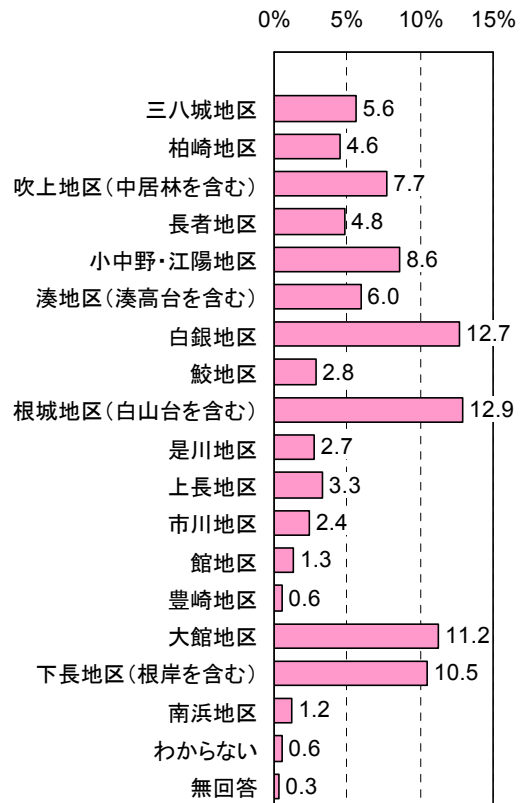
問 お住まいの地区としてあてはまる番号に1つだけに○をつけてください。

●今回調査



(回答該当者:1,021人)

●前回調査

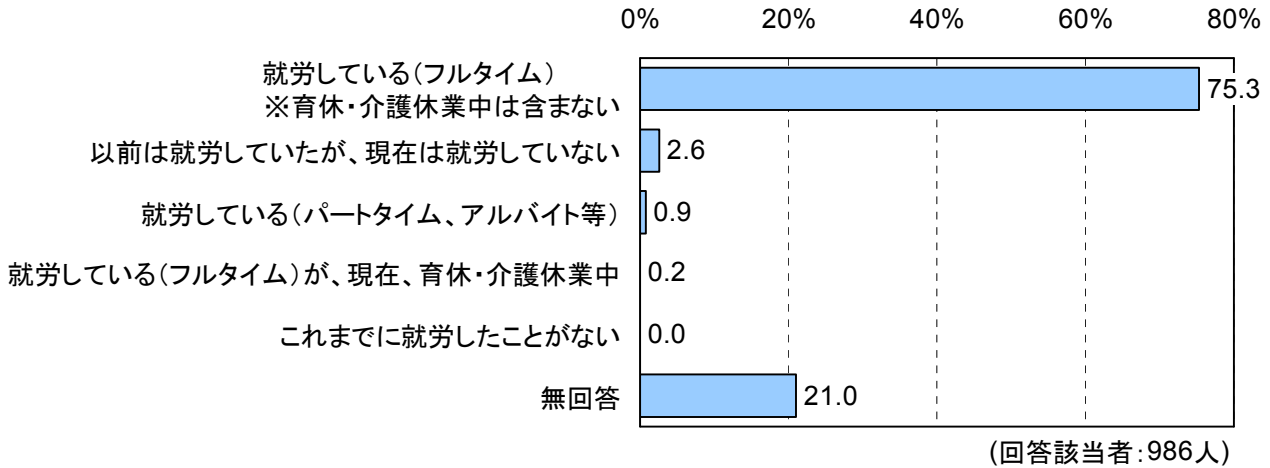


(回答該当者:1,204人)

2 お子さんの親御さんの就労状況について

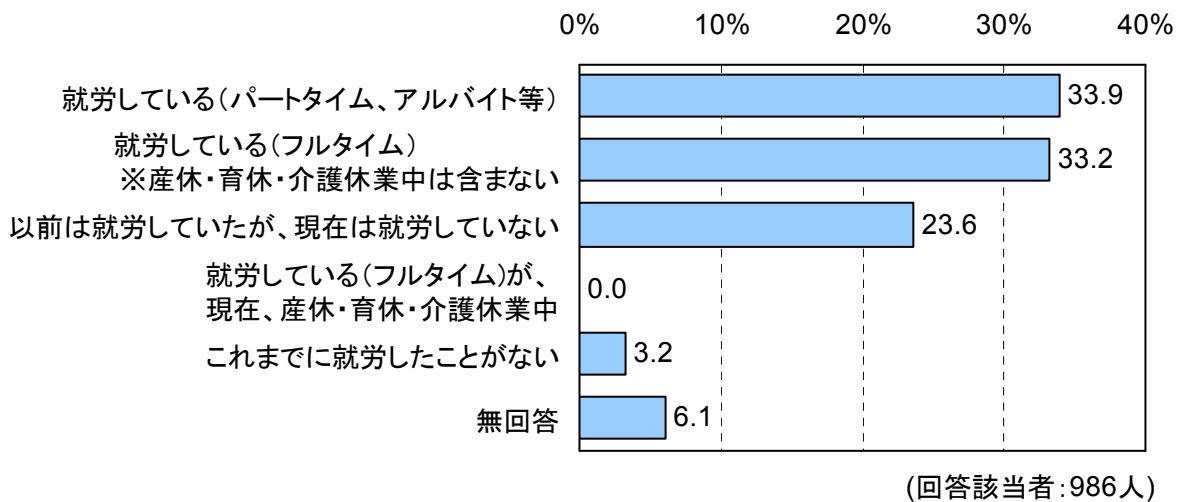
問 現在の就労状況を(自営業、家族従事者を含む)お伺いします。

(1) 父親 (母子家庭の場合は記載不用)



父親の現在の就労状況では、「就労している(フルタイム)※育休・介護休業中は含まない」が圧倒的に多く、75.3%を占めている。

(2) 母親 (父子家庭の場合は記載不用)

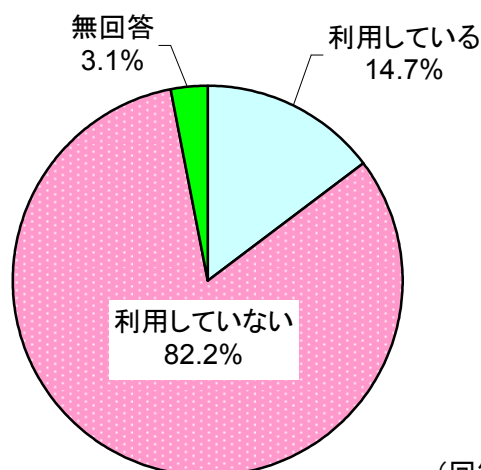


母親の現在の就労状況では、「就労している(パートタイム、アルバイト等)」が33.9%と最も多く、次いで、「就労している(フルタイム)※産休・育休・介護休業中は含まない」(33.2%)、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(23.6%)の順となっている。

3 放課後児童クラブの利用について

問 現在、放課後児童クラブを利用していますか。

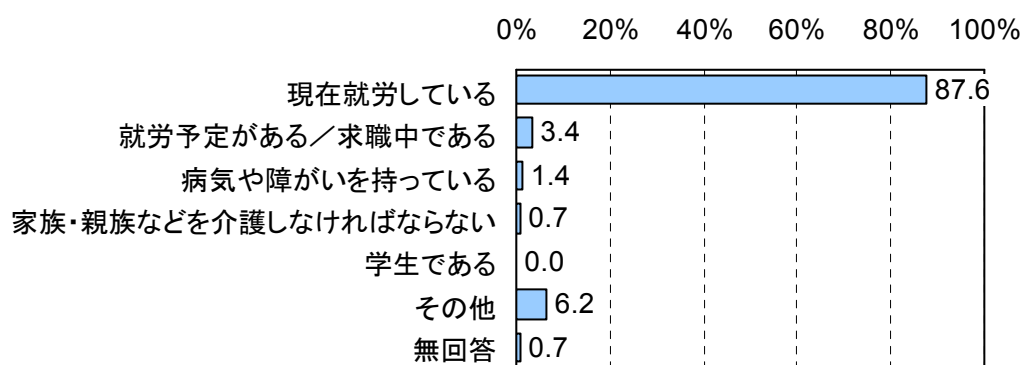
【放課後児童クラブ(仲良しクラブ)・・・保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導者のもとで、子ども(おおむね10歳未満)の生活の場を提供するものです。問10の「放課後子ども教室」と連携して実施されている場合があります。】



(回答該当者:986人)

放課後児童クラブ(仲良しクラブ)の利用状況は、「利用している」が14.7%、「利用していない」が82.2%となっている。

問 放課後児童クラブを利用している理由は。

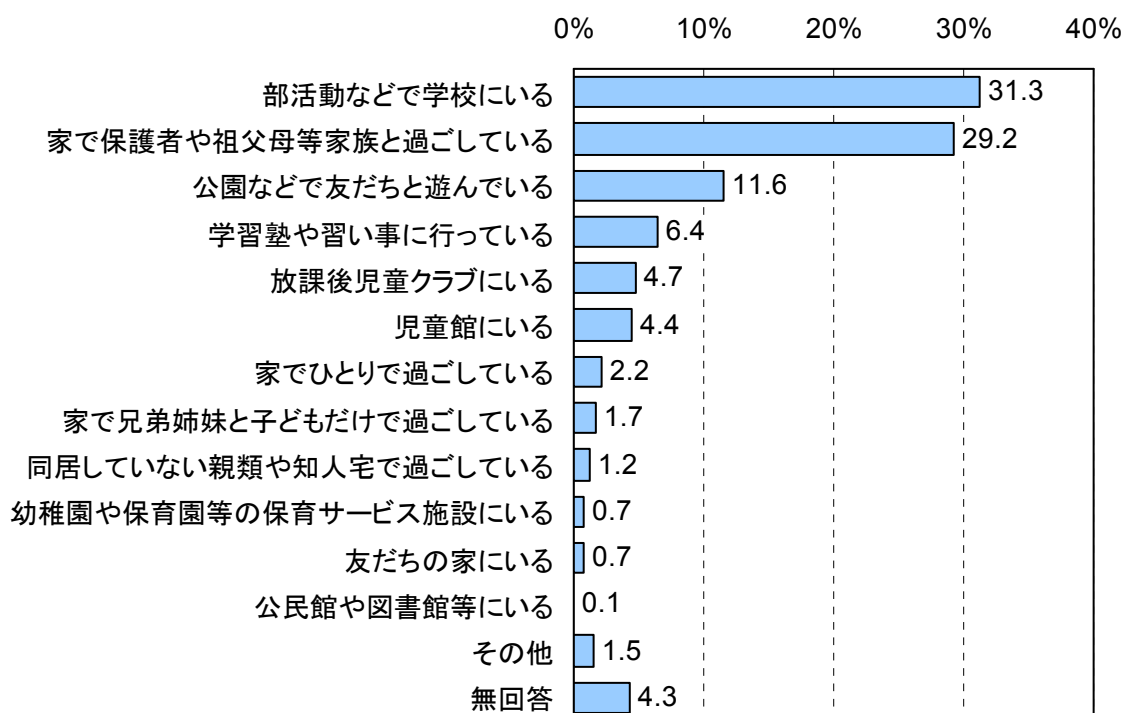


(回答該当者:145人)

放課後児童クラブを利用している理由は、「現在就労している」が87.6%と圧倒的に多い回答となっている。

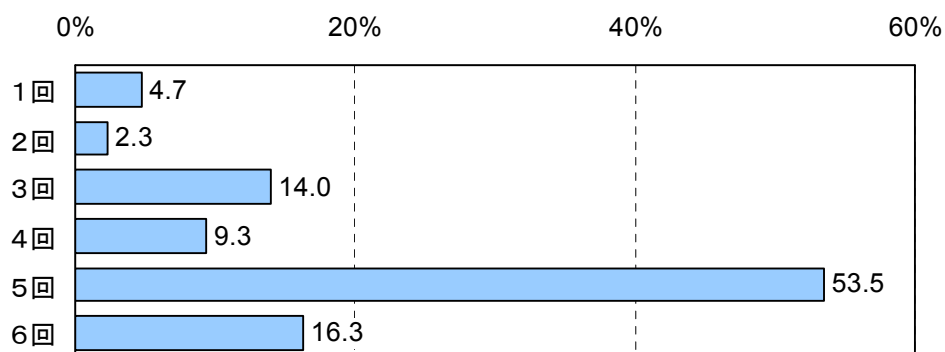
4 お子さんの放課後や土曜日の過ごし方について

問 平日の放課後や土曜日等のお子さんの過ごし方について。



(回答該当者: 986人)

・児童館にいる → 週に何回くらい



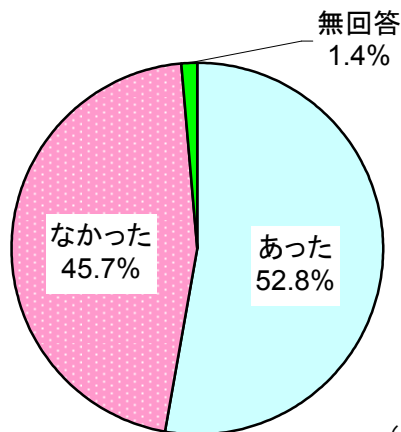
(回答該当者: 43人)

平日の放課後や土曜日等の子どもの過ごし方を尋ねたところ、「部活動などで学校にいる」(31.3%)、「家で保護者や祖父母等家族と過ごしている」(29.2%)、「公園などで友だちと遊んでいる」(11.6%)などが多く挙げられている。

また、児童館にいると回答した方に、その頻度を尋ねたところ、週あたり「5回」という回答が53.5%と圧倒的に多くなっている。

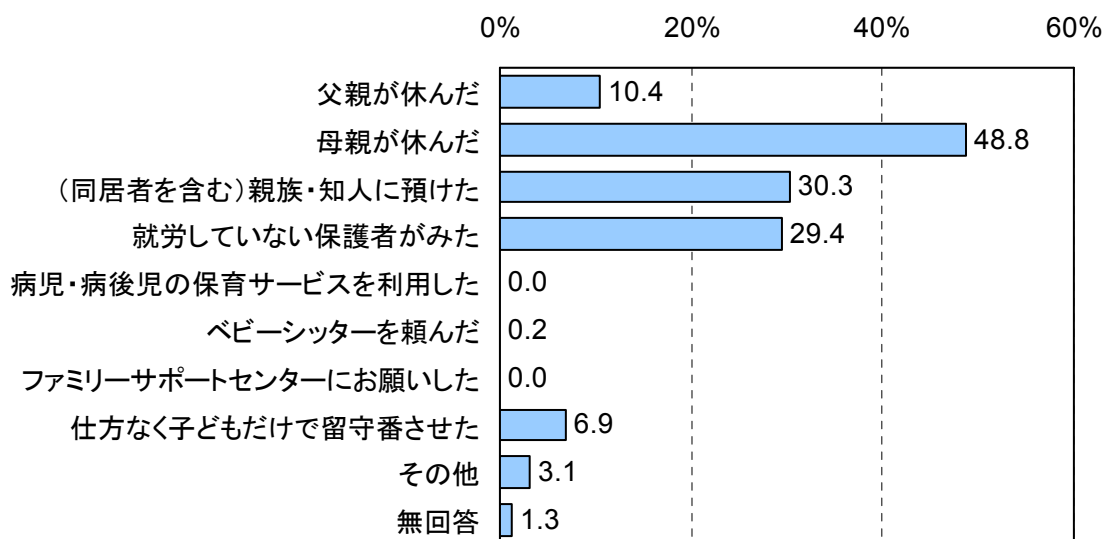
5 お子さんの病児・病後児の対応について

問 この1年間に、お子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかったことはありますか。その時の対処方法は。



子どもが病気やケガで学校を休まなければならなかったことがあったか尋ねたところ、「あった」が52.8%、「なかった」が45.7%となっている。

(回答該当者:986人)

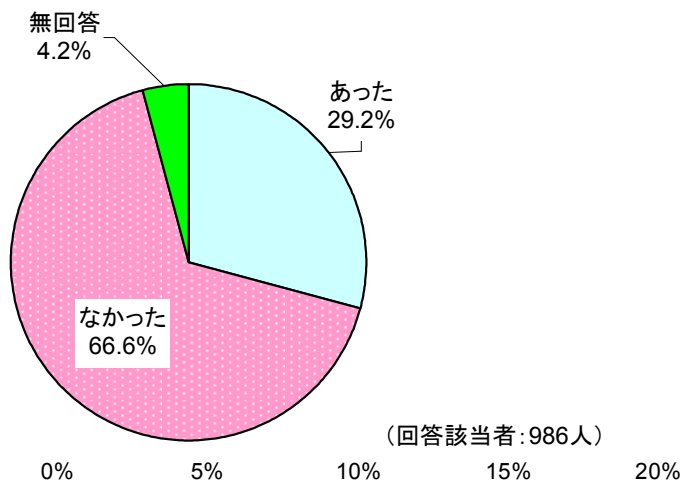


(回答該当者:521人)

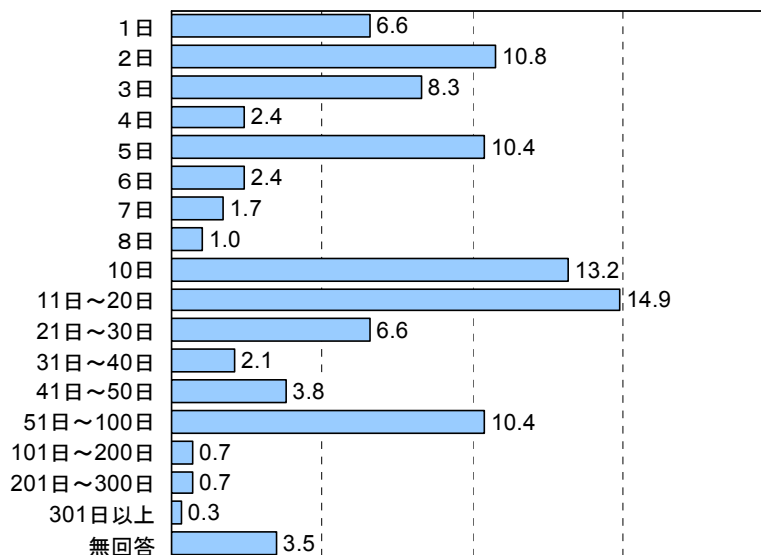
子どもが病気やケガで通常のサービスを利用できなかった時の対処法では、「母親が休んだ」が48.8%と最も多く、以下、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」(30.3%)、「就労していない保護者がみた」(29.4%)の順となっている。

6 お子さんの一時預かりについて

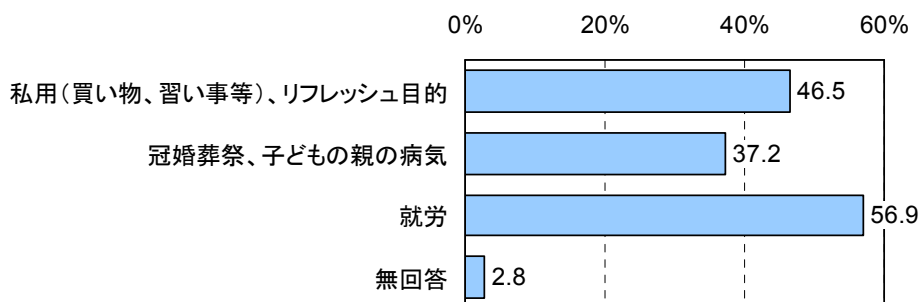
問 この1年間で、お子さんの面倒を普段みている方が、私用やリフレッシュ目的、就労のため、お子さんを一時的に誰かに預けたことはありましたか。



・ 年間の日数



・ 理由別



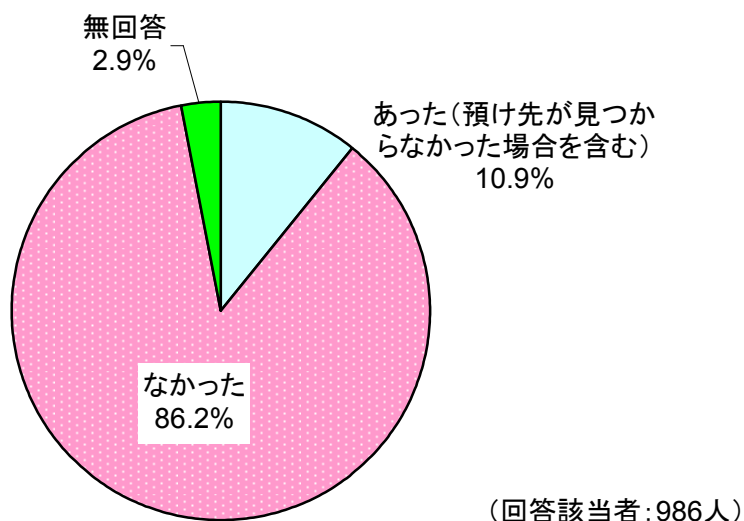
(回答該当者: 288人)

1年間に私用やリフレッシュ目的等で子どもを家族以外に預けたことがあったか尋ねたところ、「あった」が29.2%、「なかった」が66.6%となっている。

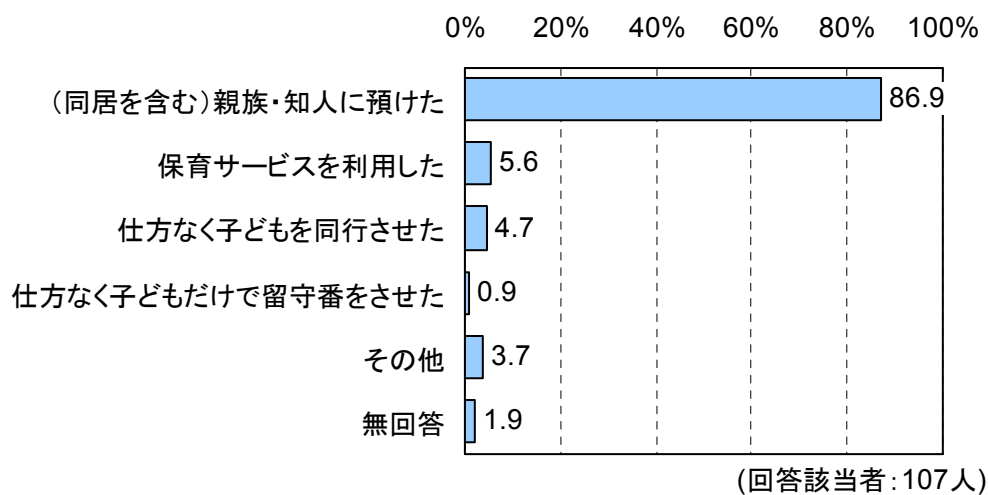
また、預けた方の日数をみると、年間で「11日～20日」(14.9%)、「10日」(13.2%)、「2日」(10.8%)、「5日」(10.4%)、「51日～100日」(10.4%)など、預けた状況はさまざまであることが分かる。

7 お子さんの宿泊を伴う一時預かりについて

問 この1年間に保護者の用事等により、お子さんを泊りがけで家族以外に預けなければならないことはありましたか。その時の対処方法は。



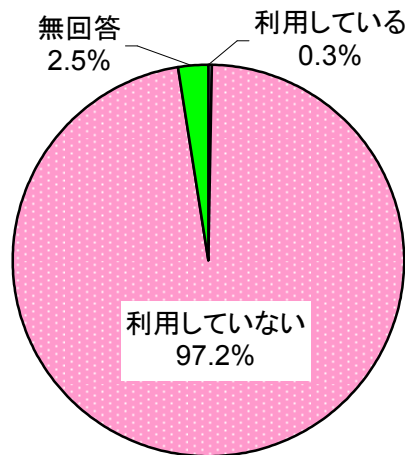
1年間に保護者の用事などにより、子どもを泊まりがけで預けなければならないことがあったか尋ねたところ、「あった(預け先が見つからなかった場合を含む)」が10.9%、「なかった」が86.2%となっている。



1年間に保護者の用事などにより、子どもを泊まりがけで預けなければならない時の対処法では、「(同居を含む)親族・知人に預けた」が86.9%と圧倒的に多い回答となっている。

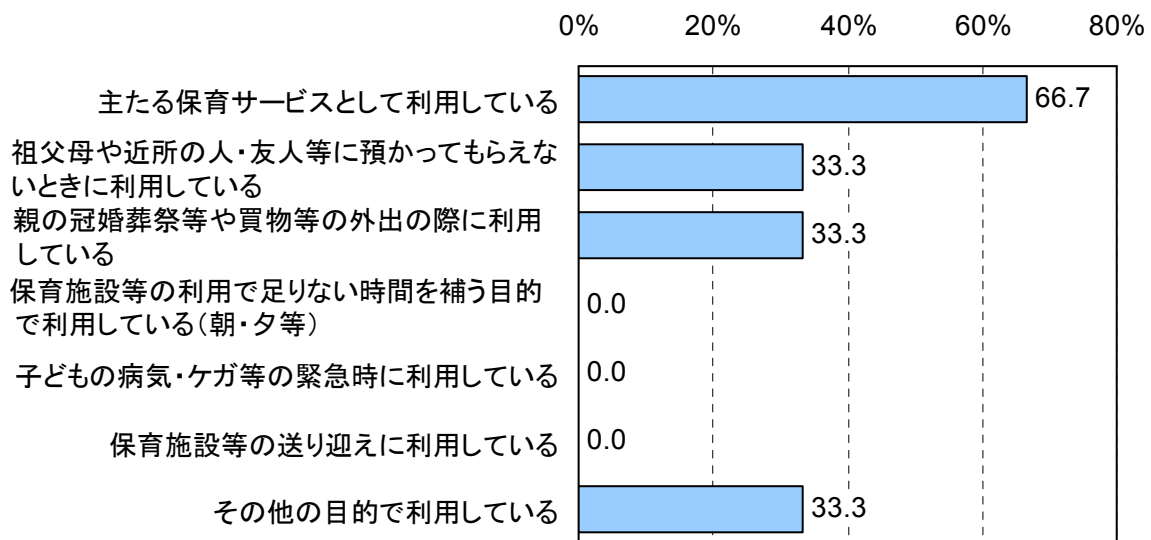
8 ファミリーサポートセンターの利用について

問 ファミリーサポートセンターを利用していますか。どのような目的で利用していますか。



(回答該当者: 986人)

ファミリーサポートセンターの利用状況では、「利用している」が0.3%、「利用していない」が97.2%となっている。



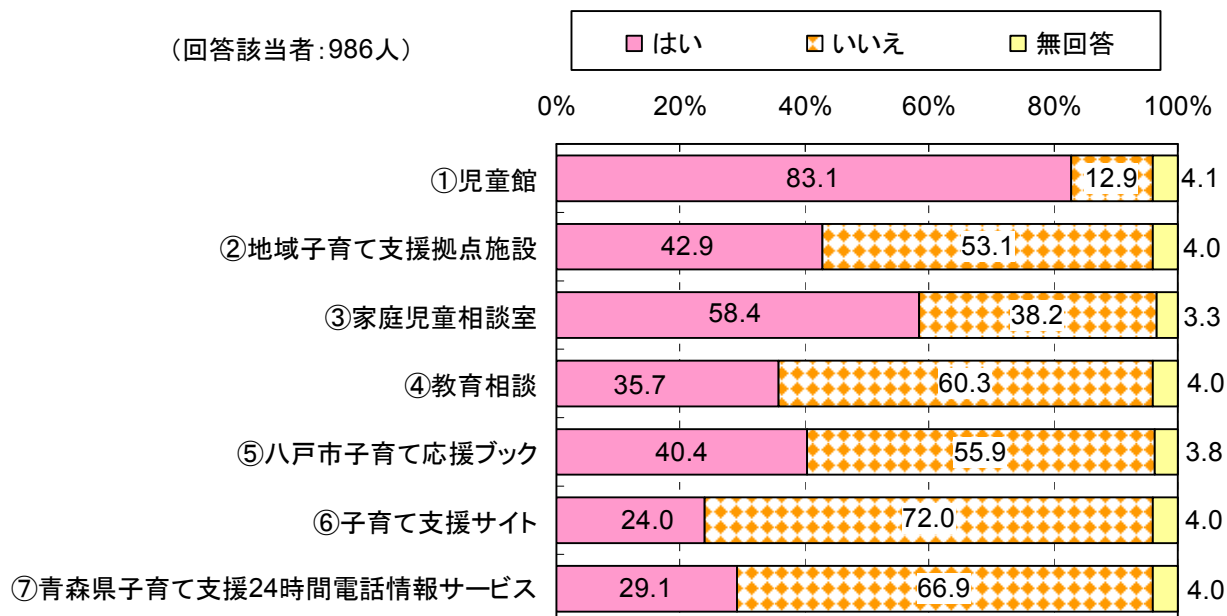
(回答該当者: 3人)

ファミリーサポートセンターの利用目的を尋ねたところ、「主たる保育サービスとして利用している」(66.7%)、「祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用している」(33.3%)、「親の冠婚葬祭等や買物等の外出の際に利用している」(33.3%)という回答が得られた。

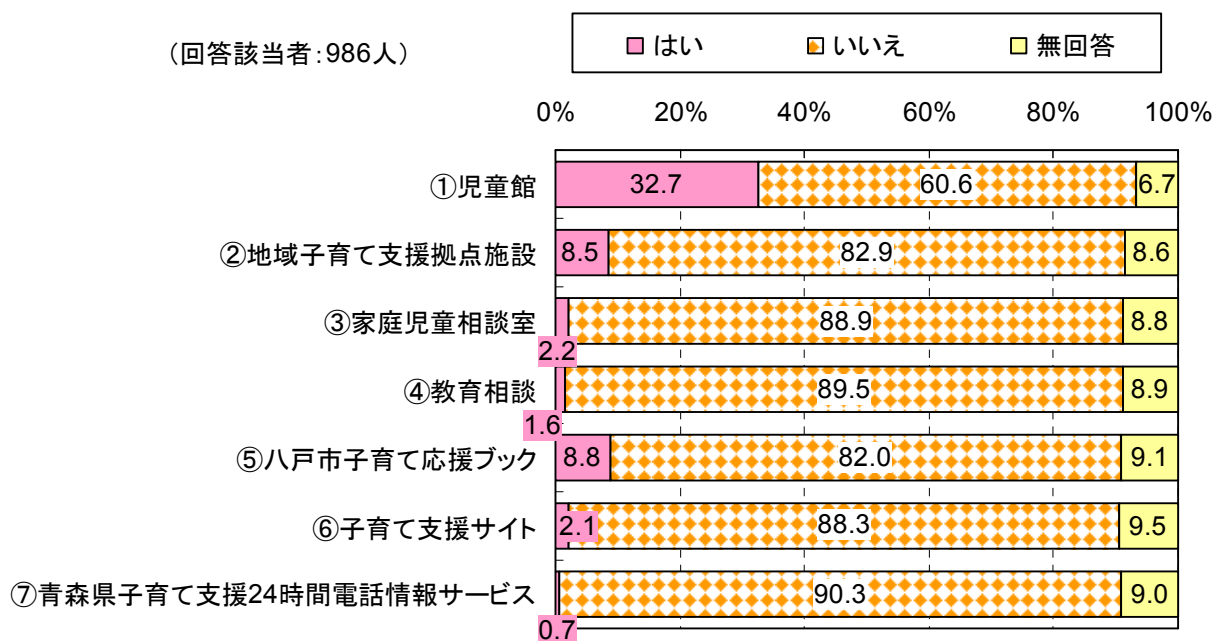
9 子育て支援サービスの認知度・利用意向について

問 下記のサービスを知っていたり、これまでに利用したことはありますか。

A 知っているか



B これまでに利用したことがあるか

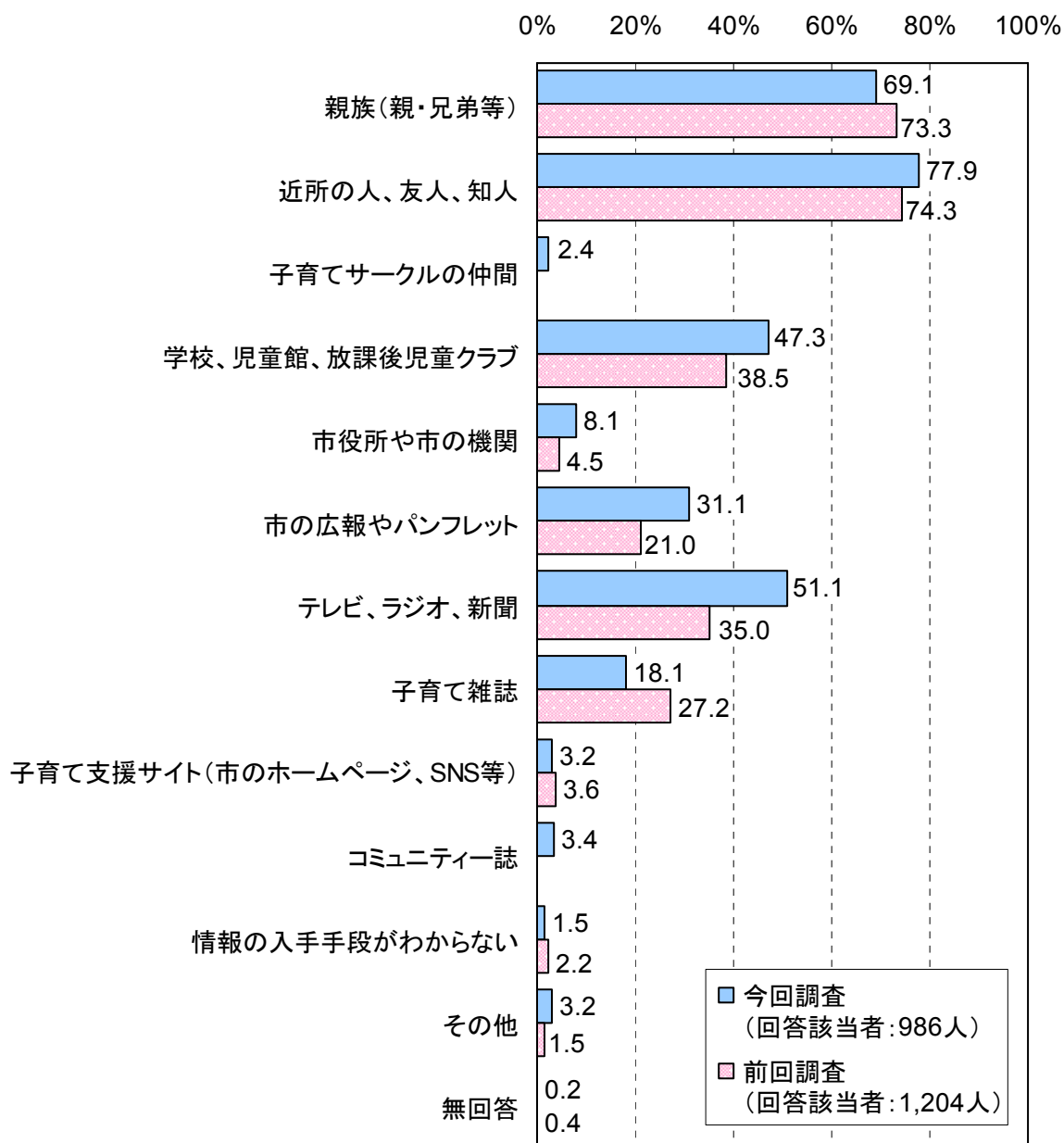


サービスの認知度については、「①児童館」が 83.1%で最も多く、次いで、「③家庭児童相談室」が 58.4%で続いている。

これまでの利用状況では、「①児童館」が 32.7%で最も多く、以下、「⑤八戸市子育て応援ブック」(8.8%)、「②地域子育て支援拠点施設」(8.5%)などが多く挙げられている。

10 子育てに関する情報入手について

問 あなたは子育てに関する情報をどのようにして入手していますか。

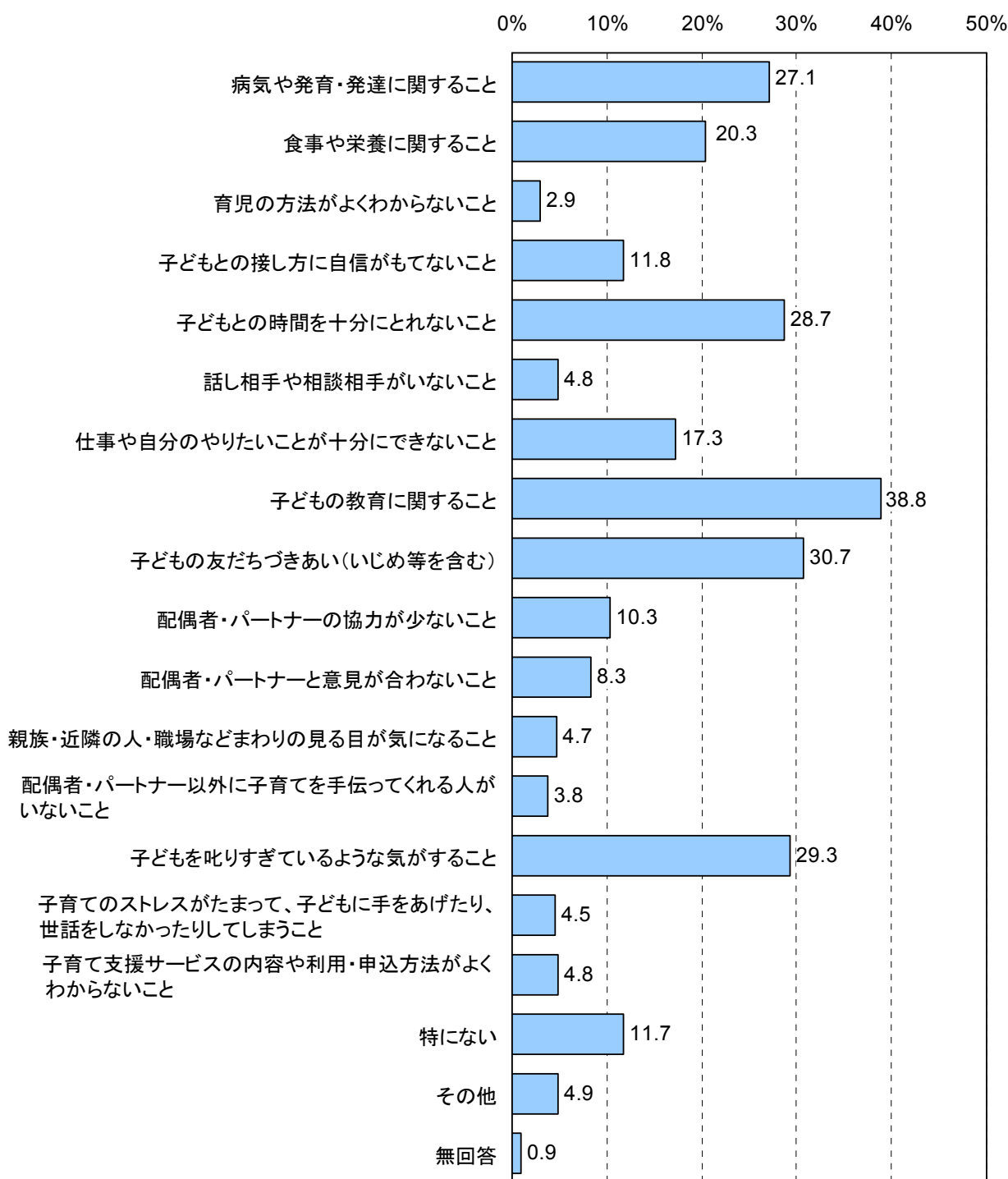


今回の調査結果において、子育てに関する情報の入手先では、「近所の人、友人、知人」が77.9%と最も多く、次いで「親族(親、兄弟等)」が69.1%で続いており、自分に身近な人たちを挙げる割合が圧倒的に高くなっている。以下、「テレビ、ラジオ、新聞」(51.1%)、「学校、児童館、放課後児童クラブ」(47.3%)が続いている。

前回調査時と比べると、「テレビ、ラジオ、新聞」、「市の広報やパンフレット」、「学校、児童館、放課後児童クラブ」などをはじめとして全体に回答割合の増加が目立つ一方で、「子育て雑誌」、「親族(親、兄弟等)」について回答割合の減少が比較的大きくなっている。なお、「子育てサークル仲間」、「コミュニティー誌」については新たに加えられた回答項目である。

1.1 ご家庭の子育てについて

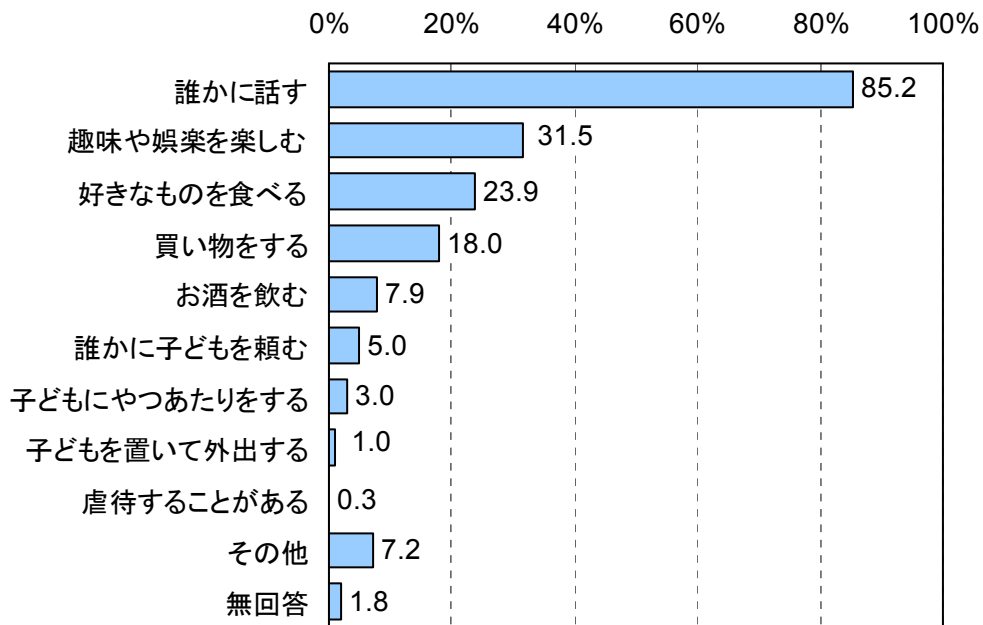
問 子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることについて。



(回答該当者:986人)

子育てに関する日常の悩みの内容では、「子どもの教育に関すること」が 38.8%と最も多く、以下、「子どもの友だちづきあい(いじめ等を含む)」(30.7%)、「子どもを叱りすぎているような気がする」(29.3%)、「子どもとの時間を十分にとれないこと」(28.7%)、「病気や発育・発達に関すること」(27.1%)の順となっている。

問 子育ての悩みを解決する方法はどんなことですか。

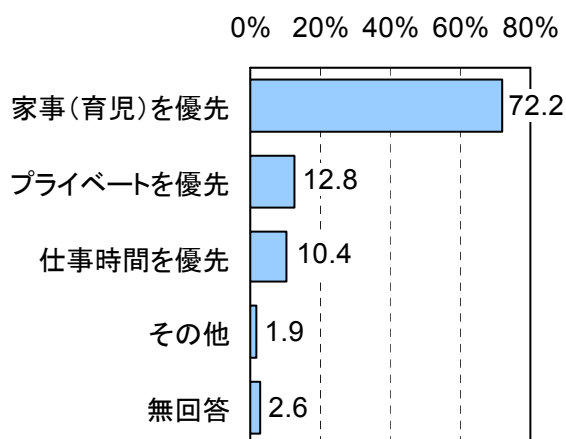


(回答該当者:986人)

子育ての悩みを解決する方法としては、「誰かに話す」が85.2%で圧倒的に多く、以下、「趣味や娯楽を楽しむ」(31.5%)、「好きなものを食べる」(23.9%)、「買い物をする」(18.0%)なども比較的多く挙げられている。

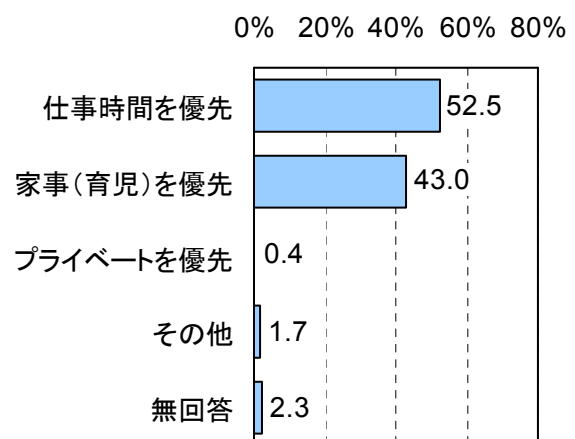
問 生活の中の「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの時間」の優先度について

・ A. 希望



(回答該当者:986人)

・ B. 現実

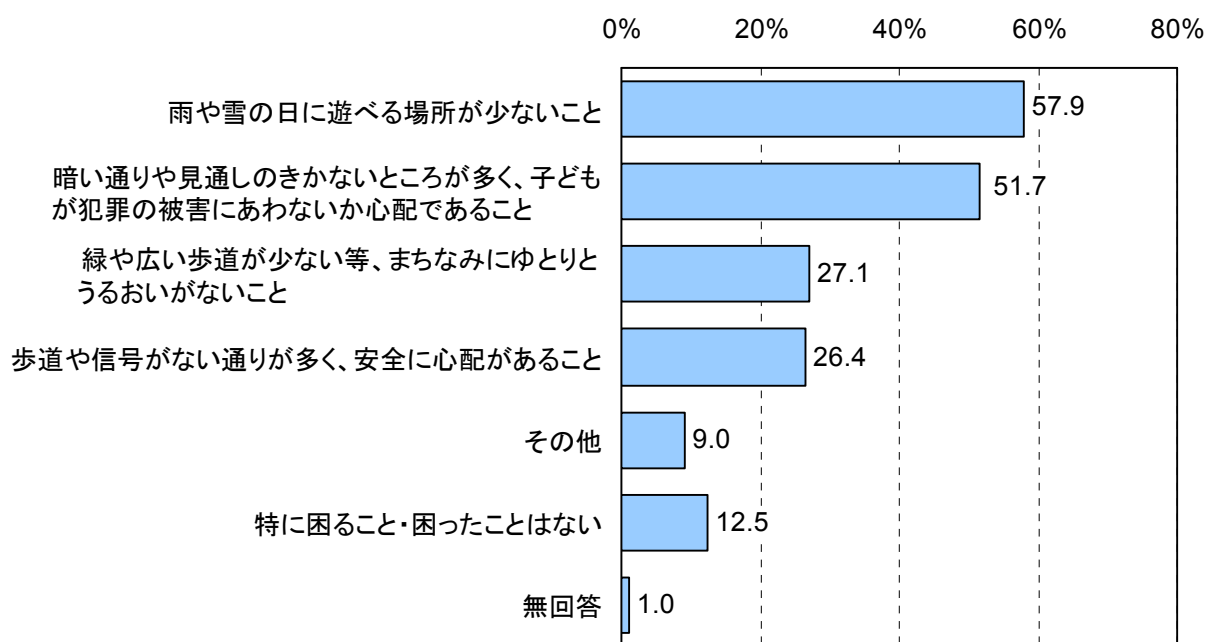


(回答該当者:986人)

仕事時間、家事・プライベート時間の優先度について、A. 希望とB. 現実を比較すると、希望では「家事(育児)を優先」が72.2%と最も多いものの、現実では「仕事時間を優先」が52.5%と最も多くなっており、時間の使い方が希望と現実では乖離していることが分かる。また、希望では、「プライベートを優先」が12.8%で2番目に多く挙げられているが、現実では「プライベートを優先」という回答はわずか0.4%みられるだけである。

1 2 地域での子育て環境について

問 子どもとの外出の際、困ること・困ったことは何ですか。

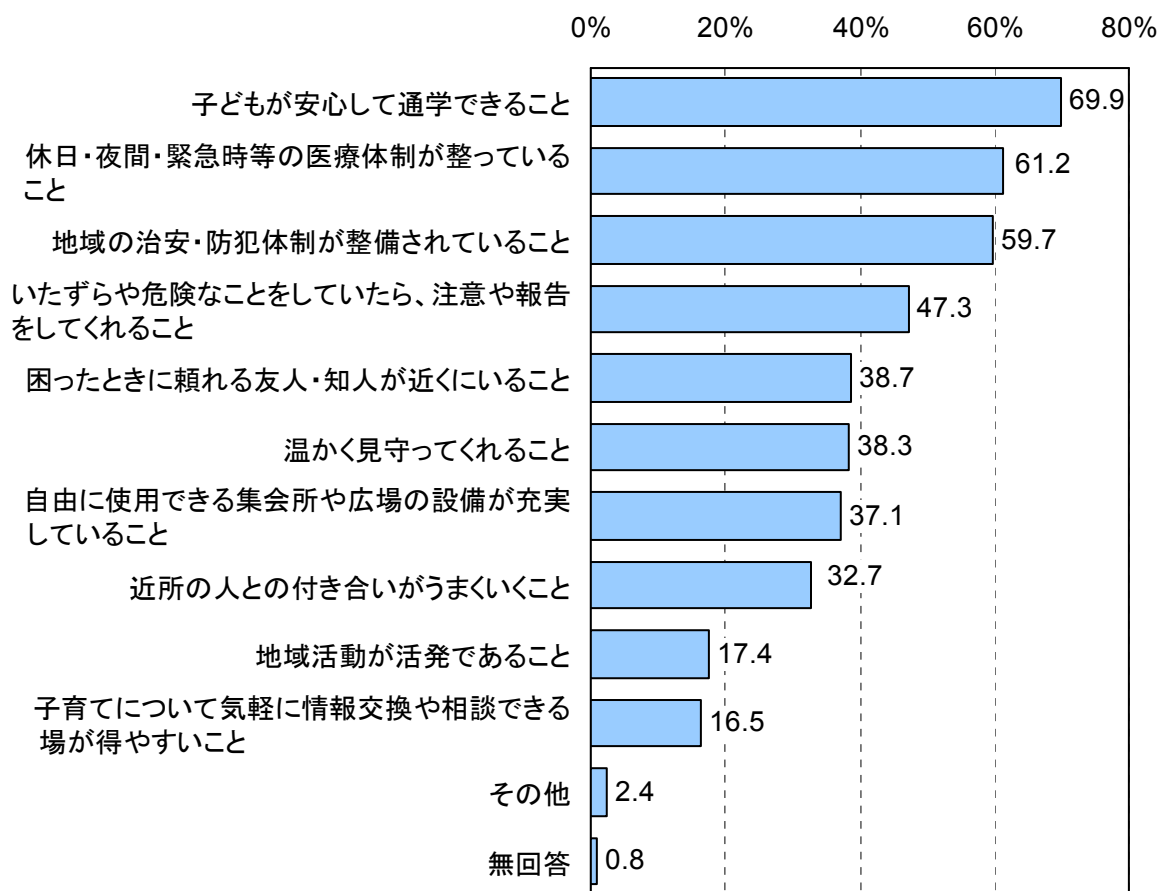


(回答該当者:986人)

子どもと外出する際の困難な点については、「雨や雪の日に遊べる場所が少ないこと」が57.9%で最も多く、次いで、「暗い通りや見通しのきかないところが多く子どもが犯罪の被害にあわないか心配であること」が51.7%で続いている。以下、「緑や広い歩道が少ない等、まちなみにゆとりとるおいがないこと」(27.1%)、「歩道や信号がない通りが多く、安全に心配があること」(26.4%)の順となっている。

一方、12.5%は「特に困ること・困ったことはない」と回答している。

問 子育てをしていくうえで地域に期待することは何ですか。



(回答該当者:986人)

子育てをしていくうえで地域に期待することを尋ねたところ、「子どもが安心して通学できること」が69.9%と最も多く、以下、「休日・夜間・緊急時等の医療体制が整っていること」(61.2%)、「地域の治安・防犯体制が整備されていること」(59.7%)。「いたずらや危険なことをしていたら、注意や報告をしてくれること」(47.3%)なども多く挙げられている。

八戸市 次世代育成支援に関するニーズ調査
調査結果報告書

平成 21 年 8 月

発 行 : 八戸市
企画・編集 : 八戸市 子ども家庭課
